

蘭使日本紀行

六

ル 3
1138
6



ル 3
1138
卷 6



本原唐書

全國大ニ歡喜慶賀躍加賀セリ。是此事關白殿ノ意ヲ芳スル
 一僅少ナラス。蓋シ自ラ日本帝將軍ト為ルヲ得サル
 一シト推察スレハナリ。且之ヲ熟思スルニ職位
 ヲ望ムモ能ワサルヘシ。何トナレハ三子アリト
 虽果シテ最幼ヲ鍾愛スレハナリト然ルニ世上
 太閤様ハ生子ノ父ニ非ストノ風説アリテ全國
 曉々タリ。是ニ於テ太閤様ト關白殿トノ離隔愈
 甚シク。彼此黨派ヲ分テ相眈眈ス。
 斯ノ如ク窳カニ相予眈眈拮眈眈スレト。日本式ニ據テ太
 閤様ハ其甥ナル關白殿ヲ祝賀セサルヲ得ス。是

致百年来ノ慣例ニテ。關白職ニ任スル者ニハ。帝
ニ諸侯伯ノミナラス。其父ナルモ。存生スレハ。其
邸ニ至^就テ。敬^慶賀スヘキナリ。此事非常ノ大典ナリ。
太閤様既ニ其令ヲ下シタルニ。關白殿ハ之ヲ望
マス。既ニノ熟考シテ之ヲ請フニ至レリ。何トナ
レハ。此大典アラサレハ。帝^{將軍}タル一キヲ公然タラ
サレハナリ。諸事萃^美壯嚴ヲ極メリ。千個ノ獵夫
ヲシテ。盡ク原^山野森林ニ獵セシメ。無致ノ漁者ヲ
シテ。河海湖水ノ魚ヲ網セシム。
日本人ノ食膳ニ方^向ルヤ。脚ヲ交叉シ下ニ坐ス。各

人ニ各膳ヲ供フ。其膳ハ四角ニノ高サ一掌半^尊
卑^賤ニ應シテ。積租別アリ。或ハ白木ヲ削リ。光澤ア
ル。鏡ノ如キアリ。塗^漆スルアリ。或ハ金彩燦爛
タルアリ。愈鄭重ナルハ。膳致愈多シ。尋常饗應ニ
ニ先ツ三膳ヲ供^ス。排置法アリ。將ニ徹セントス
ルニ方テ。更ニ三膳ヲ供フ。渴ヲ起スノ品ヲ以テ
ス。帝^{將軍}家ノ供膳ニハ。精巧金彩アル木盃ヲ用フ。之
ヲサカブキト名ク。以テ酒ヲ注スルナリ。
關白殿ハ。三千人前ノ膳ヲ用^{準備}意セリ。男女差アリ。
婦女ハ別室ニ坐シ。男子ト相見ル。勿ラシム。太

岡様ハ關白殿ヲ訪フニ行装總テ萃美ヲ盡セリ
 其血族之ヲ案内ス其行装壯大驚ク一シ總テ想
 像ノ及フ所ニアラス又關白殿ノ之ヲ饗應スル
 亦臆測スヘキニアラス饗應善美ヲ盡ス一キカ
 為ニ太岡様ニ請テ期日ヲ遲延スル一八日此ノ
 如クナラサレハ諸事整頓ヲ得難ク又各地諸候
 ヲ招集スルノ餘暇勿レハナリ行装左ノ如シ
 太岡様先ツ其妃政所様ヲ送レリ京都ヲ距ル一
 三里伏見ニ住スル所ナリ乘車ニテ立派ナリ前
 驅ハ貴人影シ行列一時許リ之ヲ警固スル歩卒
 夥シ其具足日光映射ス總テ貴品ナリ貴人ノ後
 ニ長キ大ナル櫃三挺ヲ荷フ長持漆塗精巧ナリ
 此内政所様ノ調度ヲ納ルナリ次テ他ノ櫃十五
 挺アリ宮女ノ衣服ヲ納ル所ナリ次テ騎馬十六
 ナリ装具金銀珠玉ヲ鏤シ人目ヲ眩ス此ノ如キ
 貴貨散亂スルノ外帝及帝妃ヨリ舊慣ニ依リ關
 白殿ニ壽贈スル金銀貨寶幾許ナルヲ知ラス弟
 五隊ハ貴位ノ宮女ナリ盛粧ノ牡馬ニ跨ル各侍
 女三十人ヲ從フ次テ乘物八挺共ニ貴價精巧ナ
 リ三十二人ニテ荷フ是最貴宮女ノ乘ル所ナリ

之ニ次テ政所様ナリ。最モ貴價ナル衆物ニテ人
肩ニテ荷フ。巧ニ教テ千ノ格子ヲ雕刻ス。其工費幾
許巨額ナルヲ知ラス。政所様ハ他ヨリハ伺フヲ
得サレ。内ヨリハ格子ヲ透シテ他ヲ自在ニ見ルヲ
得ヘシ。同装ノ輿支多衆隨行ス。日本貴妃ノ行装
實ニ驚クヘシ。後從ハ百五十人ノ貴女ニテ終ル
共ニ盛粧ノ馬ニ跨ル。皆顔ニ指絹ヲ被フ。各從者
アリ一馬丁ニテ二馬ノ口綱ヲ引ク。
最後隊ハ宮女ナリ。二輪車ニ乘ル。軸ノ天端ニ銀
板ヲ附ス。木板ノ縁ニハ光輝アル銅ヲ装スリ。

ンツ 車ノ輪カ。軸ヨリ抜ケサル様ニハ磨ケリカ。
軸ノ先ニサシタル栓。

ラツト 車ノ箱ハ階圓ニノ前ニ挺出ス。後ニ柱ヲ

建ツ。其上端ニ日覆ヲ張ル。横木ニテ之ヲ支フ。日

覆ハ輪狀ニ張リ。中點ニ集合シ。結締糸ス。輪回ニ帛

ヲ壅ル。三尺毛氈ハ亭ニ車内ノミナラス。更ニ

外側ニ懸ル。故ニ輪ト兩側トノ間ニ壅ル。此毛氈

上ニ宮女ハ美粧ニテ坐ス。一男アリ。兩挺間ニ在

テ車ヲ押スナリ。此ノ如キ行装ニテ。政所様ハ聚

樂第ニ赴ケリ。而ノ際白殿ニ進呈スルニ巨額ノ

貨幣及他ノ貴價品ヲ以テス。其華美盛大ナルヲ

人ヲ驚スニ足ル。關白殿ノ納ル所極テ盛殿木ナリ。
翌日太岡様ハ其邸ヲ出ツ。市前時ニ於テ貴人多ク
隨從御導シ。聚樂ニ赴ケリ。太岡様ノ邸ト聚樂第ト
ノ間ニ両側ニ番兵ヲ配置ス。相隔タルニ歩毎
ニス。番兵ハ手ニ抜刀ヲ持テ立ツ。是美濃候。即チ
亡帝將軍信長ノ孫ノ人数ナリトス。此番卒ノ間ヲ通
過スルハ先ヲ精兵三百共ニ盛粧ナリ。各人ノ具
足ヲ前行セシム。頗ル多シ。第二隊ハ諸候ナリ。或
ハ弓ヲ執ルアリ。或ハ劍ヲ執ルアリ。或ハ懐劍ヲ
執ルアリ。又他ノ武器ヲ執ルアリ。皆太岡様ノ所

用品ナリ。

之ニ次テ太岡様ノ坐スル車ナリ。其構造製作ノ
精巧緻密ナル。後狀ス可ラス。金彩粧饒燦然ク
リ。輪圍ニアルヘルゲ。車輪ノ外回ノ木蓋シ外回
アルヲ四ヘルゲ。車輪ト云フカ。如シアル。輪内ノ輻及縁
ヲ六ヘルゲ。車輪ト云フカ。如シアル。輪内ノ輻及縁
皆純銀ヲ用フニ足ノ黒色大牛ニ架ス。角ヲ饒リ
紫色ノ帛ヲ被フシノ。珠玉ヲ粧ス。太岡様牛ヲ用
フルハ馬ヲ缺クニアラス。則チ尊貴ノ標準ナリ。
是舊式ニテ内裡ニ参朝スルニ牛車ヲ用フルナ
リ。數百年來ノ習慣ナリ。此車ニ架スルノ牛ハ屨

試シル所ナリ。又太閤様ノ車ノ周圍ニハ從者無致ナリ。大街ニテ太閤様ト關白殿トノ御者相近接ス。然レモ兩公ハ其間隔尚遠キカ故ニ豆ニ無言ナリ。關白殿ハ夕ンギ候ヲ使者トシテ太閤様ニ臨駕ノ謝辭ヲ述ヘシム。太閤様之ニ答テ言ハシム。關白殿御成。千秋萬歲ト。蓋シ衆人ノ為ニ萬歲ヲ祝ストノ意ナリ。

リ。太閤様車中ヨリ大聲ヲ放テ之ニ答テ曰クサキヘイカテイイカレイ其意ハ前行サル一シ。余隨行ス一シトナリ。此應接ノ後ニ兩側ニ警固スルノ諸人再ヒ馬ニ跨リ關白殿ニ隨テ聚樂ニ赴ケリ。程ナク太閤様モ進行シ全隊通過スル日既ニ大ニ正午ヲ經過タリ。全行班ノ總宰ハ京都市正ゲネヨイシナリ。太閤様ノ聚樂ニ至ルヤ橋ヲ經テ門内ニ入ル。衆諸候皆奉迎セリ。關白殿ニ進物ヲ呈ス。其物品ノ價格臆測ス可ラス。而ノ伯父ヲシテ華美ヲ恣ニセシノサル為ニ之ニ報フル

ニ貴價ナル吊良應ヲ以テス

善美ノ饗應連三日ナリ。凡ソ耳目口鼻ヲ慰ムル所以ノ者盡サレ所ナシ。食膳ニハ凡ソ地上ニ生スル者河海ニ産スル者氣中ニ飛フ者山林ニ住スル者備ヘサル所ナシ。價格ヲ論セス。工巧ヲ惜マス。各室歌曲ヲ奏シ。糸竹管弦争ヒ起ル。諸技藝總テ世上ノ謬誤ヲ傳フルニ異ナリ。戲場ノ舞臺ハ漆塗ノ板ヲ張ル。柱ハ彫刻精緻ニシ。金彩ヲ粧ス。紫幕ヲ張リ。毛氈ヲ敷ク。毎時異觀ヲ呈ス。他地ニ於テハ。武藝ヲ演ス。則チ廣濶地ノ中央ニ

太キ四角ナル柱ヲ立テ。更ニ四方ニ支柱モリヲ立ツ。場ノ周圍ハ厚キ板ニテ劃シ。觀者ノ此内ヨリ出ルヲ制ス。尋常吏人ハ護堀内ニアリ。貴人ハ棧敷ニ上リ觀ル。一シ縁ニ裂アル小旗内相。葉ノ金紋ハアリ。ヲ長竿端ニ懸ケ。之ヲ斜ニス。二人宛ニテ甲優乙劣ヲ競フ。木造ノ八頭ヲ四角柱ノ尖端ニ置キ。之ヲ刺スナリ。各人慣手ノ武器ヲ用フ。或ハ長鎗ヲ以テスルアリ。或ハ劍ヲ以テスルアリ。總テ其銳尖ノ頭ニ入ルヲ勝トス。或ハ此ノ如キ木頭ヲ多ク排列シ。兩人宛ニテ手銃。或ハ弓矢ヲ以テ射ルヲ競

フアリ。勝ワ者ニハ賞アリ。

此ノ如キ饗應配膳アル聚樂ニ於テスル一満三日

ナリ。然レモ太閤様尚戒心ナキ能ワス。蓋シ食膳

中或ハ毒ヲ和シ歡樂中ニ於テ。竊カニ殺害スル

一アル一キヲ慮レハナリ。預メ此詐技ヲ防カン

カ為ニ腹心ノ朋友ヲ聚樂ノ四方ニ排置シ警察注意

セシム。而シテ關白殿ニ對シテハ親愛ノ状懇切ノ

容ヲ示ス。絶テ疑ノ一キ證據ナシ。關白殿多國ヲ

領シ將軍職帝位ヲ継カントスルノ意アルヲ以テ大ニ

尊敬ノ意ヲ表スルナリ。若シ關白殿此ノ如キ親

愛者ニ向テ疎意ヲ抱クニ非サルヨリハ絶テ不

慮ノ事アラサル一キナリ。

此ノ如キ懇親中ニ於テモ近侍中或ハ關白殿ノ

意ヲ知ラスノ伯父太閤様ニ害心ヲ挾ム者ナキ

ニ非サルナリ。故ニ番兵ヲ四方ニ置キ不虞ニ備

フ。饗應ノ第一夜ニ方テ舞躍ヲ觀ニ供センカ為

ニ公坐ヲ他所ニ轉移セシメテ請フ。此藝人中兵

力ヲ以テセシメテ京都ヲ押領セントスルノ意

ヲ抱ク者多シ。蓋シ騷擾ニ象シテ公ヲ弑セント

スルナリ。然レモ早ク之ヲ惜ルヲ以テ故障ナク

尋常祝聲ニテ終ルヲ得タリ。

聚樂ニテハ血ヲ見ルニ及ハスシテ饗應終リ太

岡様ハ是ヨリ急ク從者ヲ伴テ一大候飛彈殿ノ

邸ニ赴ケリ此候亦饗應スルニ費額ヲ惜マス金

屑ヲ食物ニ撒布スルニ至レリ其膳部ノ鄭重結

構ナル哉許ノ巨額ヲ費ヤスヲ知ラス抑モ金屑

ノミノ價モ千四百レクスタイルテリナリト

云フ日本諸候ノ習慣ニテ酒一献毎ニ多金ヲ費

ヤス況ニヤ帝^{將軍}ヲ饗應スルニハ九献ナリ而ノ一

献毎ニ新^{下物}品ヲ呈スルナリ飛彈殿ヨリ太岡様ニ

盃ヲ捧ク其第一献ニハ四千五百ジユカ一テシ

一シユカ一トハ金一円トニ十三弍八重五毛故ニ

四千五百ジユカ一テシハ大畧五千円ナリ

毎献次第ニ大ニノ九回ニ及フナリ蓋シ永久恩

惠ヲ保持セシカ為ニ捧クル所ノ總額意表ニ出

フ太岡様此邸ニテ一日ヲ消セリ蓋シ其鄭重ナ

ル一曾テ九ヶ國ノ太守ナルギ一タソノ饗應ニ

讓ラス

既ニノ太岡様終ニ伏水ニ歸レリ是宮殿アル所

ナリ後久シカラスノ其甥關白殿ヲ請招シ饗應

シ某ノ地ニ於テ某ノ時ニ於テ祝宴ヲ開キ舞躍

國公殿本南

競馬ヲ觀ニ供セントス。但シ太閤様恨ヲ抱テ注
 目セサルニ非サルナリ。侍臣中ニゲホニオアリ
 亡帝^{將軍}信長ノ弟ノ子ナリ。太閤様之ヲ側ニ招キ其
 注意ヲ謝シ更ニ落涙シテ曰ク。汝ノ日本遠隔ノ
 地ニアル實ニ憐ム一シ。汝ノ伯父信長ハ余ヲ卑
 位ヨリ拔テ大職ニ當ラシム。余カ今日アルハ全
 ク汝ノ伯父ノ厚意ニ出ル所ナリ。遠カラスノ余
 汝ヲ一大候ニ進^{マントス}シ。今聊カニ微意ヲ表スル
 ニ余六千俵ヲ以テスト。
 然ルニ關白殿ハ伏水^{在住ノ}於テ太閤様ヲ請招シ立
 派ニ饗應セント欲シ。則チ伏水ニ於テ貴價ナル
 宮殿ヲ建築セリ。而ノ饗應善美ヲ盡シ。太閤様ヲ
 請招セシム。公ハ其請ニ應セス。徒ラニ時日ヲ消
 費シ企謀スル所アリ。遲延久日ニ亘ルヲ以テ關
 白殿ハ大ニ不滿ノ意ヲ懷テ。聚樂第ニ歸レリ。是
 ヲリ宿怨愈固結シテ解散セス。日々角力擊劍競
 馬射的等ノ諸武技ヲ演習シ。竊カニ隱謀ヲ秘匿
 シ。且微服シテ聚樂第ノ廣潤ナル地ニ於テ罪人
 ヲ刑戮^濫自刃シテ以テ歡樂トセリ。然レモ尚竊カ
 ニ日本大諸候ヨリノ進物ヲ貯蓄ス。

近幸ノ臣ニスキラビンゴアリ^{此人}シテ百万諸
候ニ説諭シ他日緩急事アルニ方テハ關白殿ノ
命ニ應シテ應分ノ兵ヲ徵集スヘキヲ結約誓書
シ調印セシムスキラビンゴ先ツ之ヲ九州王ア
キロマルニ謀ルアキロマル之ヲ擯斥シテ曰ク
何ソ必スシモ誓約スルヲ要センヤ或ハ誓約ス
ル者アルモ信固結合スルヲ能ワサルヘシ故ニ
辭スト然レモ他ノ約ヲ結フ者ハ誓書ニ調印シ
テ之ヲスキラビンゴニ呈ス一老侍女此書ヲ預リ
之ヲ關白殿ノ邸内ニ秘藏ス

既ニノアキロマルスキラビンゴノ行事ヲ太閤
様ニ告ク太閤様明ラカニ其事情ヲ熟知シ為ニ苦
慮深謀スル所アリテ關白殿ヲ招キ理由ヲ詰問
セント欲セシニ關白殿ハ大ニ感冒ニ罹ル^ハ以^故
急速命ニ應ス可ラサルヲ以テ之ヲ辭ス太閤
様満足セス乃チ信任スル所ノ五諸候ニ謀リ關
白殿ヲシテ五ヶ條ノ問題ニ明答スル所アラシ
ノントセリ曰ク

三

感冒ニ罹ル者豈ニ能ク日々舞躍競馬擊劍等ヲ
演習スルヲ得ンヤ是健康時ニアラサレハ能

ハサル所ナリ以テ如何トス 貴重ノ身ヲ以テ
辱罪人ヲ手及スルハ抑モ何ノ心ソヤ 多致ノ
兵卒ヲ募集シ以テ非常ヲ警ムハ何ノ故ソヤ
護身ノ衛兵致千人ニ及フハ何ノ故ソヤ 日
本全國諸候ニ結約誓書セシムルハ何ノ意ソヤ
關白殿自ラ明亮ニ之ニ答フル所アル一キナ
リト

太閤様ハ伶俐ナル一老侍女ヲ關白殿ノ第二送
リ詰問ニ答フル所アルヲ聞カシム關白殿侍女
ニ向テ答テ曰ク 今日劇甚ナル感冒ニ罹レリ
而ノ乘馬擊劍ヲ演スルハ病苦ヲ慰ムルニ過キ
ス 人ヲ刑戮スルハ敢テ故ナキニアラス 果ノ
處ス一キノ罪ヲ加フルノミ 兵卒侍臣ヲ增多
スルハ共ニ帝家ヲ警固シ安穩ナラシメントス
ルニ過キス 若クノ如クナラサレハ太閤様ノ老
衰ニ傾キ威權ノ減退スルヲ時トノ或ハ騷動乱
暴ヲ謀ル者アルヲ防クニ足ラサレハけリ 諸
候ニ誓約スルハ唯各人ヲシテ同心協力ナラシ
メントスルニ過キス 侍女曰ク關白殿自ラ此
言譯ヲ手記シテ他意ナキヲ誓約セハ太閤様必

ラス醒満悟足スル所アル一キナリ

是ニ於テ關白殿答書ヲ呈セリ。太閤様之ヲ通讀シ。喚テ曰ク。我カ甥罪ナシ。世人何ソ人ヲ欺クノ患タシキヤ。余ト關白殿トノ間ヲ分裂センカ為ニ何人カ無益ノ口舌ヲ弄スルヤ。諸候ノ虚説ニ惑フ。復タ歎ス一キナリ。此ノ如キ満足ノ意ヲ詳カニ書ニ記シテ。關白殿ニ送レリ。蓋シ是レ幼主ヲ解急油斷セシメ。竊カニ棧會ヲ族ヲノ秘策ニ出ル所ナリ。抑モ關白殿招集スル所ノ兵ヲ解散退去セシムルニ非サレハ其意ヲ達スルニ難ケレハナリ。依テ遽カニ全國ニ令シテ。兵ヲ伏水ニ招集シ。關白殿ヲシテ絶テ之ヲ知ルト勿ラシム。各

地ノ諸候ハ。關白殿ノ第ニ来リ候シ。太閤様トノ間ニ起リタル紛紅解散セルヲ慶賀スルヲ以テ。關白殿ハ。大ニ安心寧意セリ。且太閤様ハ。初生児ヲ關白殿ニ委託シ。養テ子嗣ト為サシメント約スルヲ以テ。伏水ニ雜沓スルトアルモ。敢テウシモ注意セサリシ。

諸事此ノ如ク。穩靜ニ處置スルノ後。招募スルノ諸候各々兵ヲ引テ。大坂ヨリ伏水ニ着セリ。宿望意

ヲ達ス一キノ棧會方ニ近キニアリ乃チ太閤様
ヨリ關白殿ヲ招請セリ蓋シ芝居ヲ開場スルヲ
名トス而ノ意中謂ラク事若シ成ラサルハ怨
恨固結シ全國再ヒ震動シ必ラス後害ヲ遺スナ
ル一シ亘シク聚衆第及他ノ總テ關白殿ノ諸郎
宅ニ火ヲ放チ灰燼トナシ關白殿ノ遺跡ヲ見テ
抗慨悲憤ノ念ヲ起ス者勿ラシメント決意セリ
關白殿ハ固ヨリ太閤様ノ隱謀アルヲ知ラサル
カ故ニサシモ疑懼スルヲナク厚意ヲ謝スル為
ニ少人数ヲ伴テ伏水ニ至レリ通路番兵ヲ配置
スルアリ是必ラスシテ適セテ防ク為ニアラス
不虞乱妨ヲ警シムル為ナレハ平時ニモ此ノ如
クスル所ナレハ敢テ怪シム者ナシ日午伏水ニ
達セリ其第前ヲ通過スルモ之ニ入ラサテシノ
尋常民家ニ於テ休息セシテ報ヲ待タシム既ニ
日暮ニ及テ太閤様ヨリ卒然命アリ高野寺ニ
赴ク一シト是紀別ニ在ル一高山上ニ築ク所ノ
一寺院ナリ抑モ高野ハ諸候ノ罪科アル者ノ住
所ナリ嚴寒ナル島ニテハチンシナト名クル地
ニアリ江戸ヲ距ルル海路東方百四十里ニアリ
隱流

南白殿三版

通論ノ地ナリ。此夜關白殿上途セリ。太閤様ヨリノ

護兵之ヲ警固ス。以テ不虞ヲ戒ムルナリ。

太閤様ノ近侍士士ニサカンドノアリ。京都ニア

ル。亞王妃ノ子ナリ。年甫テ十八歳。關白殿ノ放逐

セラレテ高野ニ赴クヲ聞キ一馬ヲ驅テ之ヲ逐

フ。警固ノ人之ヲ支ユテ諭シテ曰ク速カニ歸去

シテ太閤様ニ奉事セハ則チ或ハ後日ノ害ヲ免カ

ル一シト則チ答テ曰ク此君ハ曾テ余カ事フル

所ナリ。固ヨリ真ニ服事スル所ナリ。今方ニ之ヲ

証スルノ時ナリ。抑モ非常凋零ノ時ニ於テ平日

親交ノ真假ヲ辨スヘキナリ。其幸福アル日ニ於

テハ衆人皆之ニ追從スルモ不幸ニノ凋落スル

ノ時ニ方テハ之ヲ顧ミル者ナシ。余ヤ親友ノ名

背クヲ欲セス止ムヲ得サレハ唯一死アリ。以テ

平日ニ報ヒンノミ則チ然リ。則チ然リト一鞭馬

ヲ躍ラセテ關白殿ヲ逐ヒ夜半竊カニ關白殿ニ

謁ス。關白殿其信誼ヲ謝シ之ヲ救ハントスルモ

為ス所ヲ知ラス。竊カニ之ヲ伴フ。然レ氏監察吏

之ヲ太閤様ニ報知ス。太閤様之ヲ知レ氏其父ノ曾

テ大功アリシト。今其子危難ヲ顧ミズ志ヲ憂セ

關白殿佛前
各秘の自文

サルヲ賞シテ敢テ其罪ヲ向ハス

關白殿ハ徹夜進行シテヒスサヨリ出立シ玉水

村ニ達ス此地ニテ後頭ノ髮及髭ヲ剃除シ日本

式ニ據テ佛門ニ入り改變称シテ關白殿ヲ廢シ道

意ト称改ム蓋シ獲ク世事ニ接觸セサルノ意ヲ表

スルナリ終ニ高野寺ニ達セリ此寺ノ大和尚興

食出テ之ヲ迎ヘ衆僧ト共ニ誘ヒ去ル山柳モ途上

各種ノ侍臣ニ逢フ皆乞弓或ハ諸商人ノ装ヲ擬

ス蓋シ太閤様ノ警固人ノ目ヲ惑サントスルナ

リ然レ氏憂爵ノ状アリテ流淚シ言語蹇澁ニノ

流暢ナラス關白殿伴フ所十人ノ共ニ寺院ニ

入ル其饗應極テ租惡ナリ歎シテ曰ク歎日前マ

テハ余候タリ玉タリ以テ汝等ニ君臨ス今ヤ凋

落極レリ許多ノ所領ニ代ルニ僅カニ一生身ヲ存

スルノニ轉化變遷獲ク甚クシキ哉余曾テ最高

所ニ登レリ今最低所ニ墮落セシナリト

此ノ如キ歎息モ寂莫ナル高野寺ニ於テ之ヲ發

シ君臣相顧ミテ相慰ムルノニ總テ太閤様ノ護

兵ノ警言警衛スル所タリ又關白殿ハ絶テ他人ニ應

接スルヲ得ス又他人ト文書往復スルヲ得ス用居

傳山

シテ絶テ人ニ接スルヲナシ大和尚興山木食謂ラク
此罪障消滅ヲ謀ルハ佛力ノ呵護ヲ願フノ外他
策ナシト則チ為ニ誓願祈念シ關白殿ヲシテ往
時ノ繁栄ヲ得セシムルハ佛力ニ頼ルニ非サレ
ハ能ワス豈ニ人力ノ達スル所ナラニヤト此處
置太閤様ノ耳ニ達スルヲ以テ愈關白殿ヲ處刑
スルノ意ヲ決シ文禄四年十五年八月十五日遂
ニ残酷ナル終焉ヲ執ラシメリ

關白殿爵憂歎息自裁スルニ躊躇セリ侍臣等之
ヲ注視スルニ容貌轉變苦悩煩悶氣息或ハ短ク
或ハ長ク言語判然ナラス唯悲哀スルノミニテ
決志シ能ワサルニ似タリ是ニ於テ侍臣等其意
ヲ鼓舞挑撥シテ曰ク太閤様ハ豈ニ天倫ヲ破リ
伯父タルヲ忘レントスルモ能ワサル所ナリ且
養育スルニ屢其當ヲ失シ幼年ナルニ托シテ登
位ヲ截ラントスルハ抑モ狂スルニ非スシテ何
ソヤ今此ノ如キ顛覆ニ至ルモ決シテ失望シ歎
息ヘキニアラス災難ニ遇フモ恐懼セス壓制ノ
惡業ヲ蒙ルモ精神勞セサルヲ以テ君責子トス
太閤様亦薨スルノ期アル一シ其時ニ及ハハ必

ス悔悟スルヲアル一シ。日本人今皆危懼シテ。沉
黙スルモ一回改綱ヲ失スルニ及至ハ。皆翻然ト
ノ太閤様何故ニ關白殿ノ位ヲ奪ヒシヤ何故ニ
之ヲ廢セシヤ何故ニ之ヲ殺セシヤヲ議スヘキ
ナリト。

關白殿ハ此諭言ニ因テ奮然死ヲ決セリ。太閤様
ヨリ使者送ル所ノ則則テ送リ關白殿及其從者ニ死ヲ賜フ。此

命一下スレハ復タ何奈トモ為スヘキナシ。皆其

準備ヲ為セリ。一侍臣先ツ自殺ス。年甫テ十八歳

ナリ。但シ此少年煩惱シテ遽カニ死セサルヲ以

テ關白殿之ヲ扶扶助助シ其頸ヲ刎シ其首ヲ傍ノ高

所ニ置ク。他ノ二臣ニ於テモ亦此ノ如クス。既ニ

ノ今方ニボンシウスビウスキルチユスルノ番ニ

及ヘリ其祖母ハ往日關白殿第内ニ赴キ風説ノ

根據ヲ探偵セシムル為ニ太閤様ノ使女トナリ

タルトアリ。此其復命報通スル所詐欺ニ直ルヲ以テ太

閤様今其孫ナルビウスキルチユスヲ誅スルナ

リ他ハ皆自裁ヲ許シタルニ此人ノミヲ刑ニ處

セントスルナリ然レモヒテウスキルチユス敢テ

命ヲ奉セス命ヲ傳フル人ヲ辱カシメテ曰ク余

太閤様ノ命ニ應シテ刑ニ就クヲ願ハス。生ヲ惜
 テ辱ヲ蒙ラシヨリハ寧ク關白殿ニ侍シテ死セ
 ンノミト既ニノ自ラ割腹セシニ疼痛劇甚ナル
 カ為ニ昏妄セリ。關白殿速カニ終焉セシメシカ
 為ニ其頸ヲ刎シ次テ自ラ刀ヲ腹ニ貫ケタリ。更
 ニ一侍臣アリ三十四歳ナリ此ノ如ク血浴ヲ見
 テ敢テ驚カス從容トノ關白殿ノ刀ヲ執リ之ヲ
 腹ニ刺ス。此刑場頭ル時同ヲ費ヤセリ。後衆僧来
 リ會シ悉ク遺體ヲ焼ケリ。此時尚未夕全死ニ至
 ラザリシ者アリタリト云フ。

太閤様ハ日々關白殿ニ附屬スル諸輩ヲ探索シ
 テ刑ニ處スルノニ熱心シ。先ツ其侍臣三人
 ニ及ヘリ。共ニ寺院ニ遁亡スル所ナリ。一ハ關白
 殿ニ阿諛ナル人ナリ。日々關白殿ニ追從シテ終
 ニ不良ヲ企謀セシ者ナリ。次ニスキラビンゴナ
 リ。是諸候ヲ鼓舞シ誓約書ヲ造リ連判記名セシ
 ノリ。此書流傳シテ終ニ太閤様ノ手ニ歸セリ。固
 ヲリ異刑ニ處スヘキ所ナリ。而ノ衆人ノ尤モ愛
 惜スルハ木村ナリ。是戦争時及亂後平和時ニ於
 テ大ニ功勞アリシ人ナリ。然レモ關白殿ノ親交

タルヲ以テ自裁ヲ免カレサル所トナレリ。
本村ノ息^子アリ。此時西國ニアリ。後ニ及テ父ノ死
ヲ知ル。父伏見ヨリ一書ヲ寄テ其意^氣ヲ奮^歎復^聲セシ
メリ曰ク。勇者死ヲ見ル。一歸スルカ如シ。況ニヤ
罪ナキニ於テオヤ唯一事ノ難^義トスルハ。今日
リ汝ト遙カニ相隔タルナリ。故ニ汝余カ死ヲ聞
カハ速カニ来リ從フヘシト。是ニ於テ罪状言渡
シテ待ツ。則チ貯畜ノ賤寶ヲ出シ。身ニ帶フ。既ニ
ノニ使アリ。伏見ヨリ至ル。一ハ其父ノ死ヲ報シ。
一ハ死ヲ賜フ。蓋シ日本ノ刑法ニ父罪アレハ其

子何状ナルニ論ナク。累連ヲ免カレサルナリ。
少年則太閤様ニ謝^セシ。且告ケシノテ曰ク。本^父
村ノ刑ニ憂スル。残酷怨ムヘシ。此ノ如キ刑ヲ受
クヘキノ理ナシ。余豈ニ此虐政ノ下ニ保生セシ
ヤ言ヒ終テ京都ニ赴キ自家持佛堂ニ入テ自裁
セリ。後本村ノ妻モ太閤様ノ命ニテ佛寺ニ於テ
刎頸セラレタリ。
既ニノ漸次ニ關白殿附属嬪妾侍女子^兒及^輩血族
ニ至ルマテ皆之ヲ死刑ニ處セリ。京都ニテ捕フ
ル所宮女三十一人皆是。或ハ公卿ノ女貴族ノ女

或ハ關白殿ノ家族ナリ。共ニ聚樂ヨリ車ニ載セ
テ刑場ニ送ラル。兇輩モ亦免カルナシ。或ハ乳
母ノ負抱スルアリ。或ハ母ノ懷クアリ。號泣啼哭
シテ衆人觀者ノ中ヲ通過セリ。其車刑場ニ近ク
ニ及テ。號哭止ミ静黙ス。獄吏公妃ニ刎頸ス。一キ
ヲ告ク。妃念佛シテ地ニ伏ス。之ヲ刑スルノ状ハ
先ツ小児ヨリス。一々其頸ヲ刎シ。後婦人ヲ車ヨ
リ卸シ之ヲ殺スノ状相同シ。其屍ヲ一穴ニ埋ム。
後太閤様其上一ニ一堂ヲ設ケ之ヲ畜生塚ト名ク。
獸類ヲ埋葬スルノ堂トノ意ナリ。

三

其後スキラビシノ妻子ヲ刑ス。迎車ヲ其郎ニ
送ル。其妻ハ耻辱ヲ蒙ラサルカ爲ニ先ツ其三兒
及一女ヲ手刃シ。頸ヲ刎シ。終テ自ラ手裁シテ。此
諸屍上ニ伏セリ。

聚樂第ヲ没収シ。他ノ三百ノ宮殿モ之ヲ崩潰シ。
伏水ニ送レリ。

太閤様ハ天正百五十八年西曆十七年既ニ日本ニアル羅瑪

教キリシタンヲ排斥セリ。是レエソイトコル
ネルスハサルト氏ヲ信スルニ由テ偶然ノ事ヨ
リ意ヲ違セシナリ。船將ドミンゴモレテロ氏葡

葡牙ヨリ来テ平戸港ニ着セリ其船極テ美麗ナ
リ是本年六月ノ一ナリ之ヲ觀ル者其製造ノ精
巧ナルト入費ノ巨額ナルニキヲ察シテ驚嘆セ
サレトシ此評判嘖々トノ終ニ太閤様ノ聽ニ達
セリ公ハ好奇ノ念ヨリ之ヲ一見セント欲シハ
サルトヲシテ其意ヲモシテ口氏ニ通達セシム
公此時博多ニ在リ則チ此船ヲ速クニ博多ニ廻
漕セシメントセリモレテ口氏答テ曰ク平戸ヨ
リ博多ニ至ルノ間暗礁淺洲多キカ故ニ之ヲ廻
漕シ能ワサルヲ以テ辭ス公復々見ルノ意ヲ止
ム然レト大ニ其命ヲ奉サルヲ恨ミ翌日書ヲ寄
テ曰ク異教徒ハ二十日以内ニ於テ日本地方ヲ
退去スヘシ抑モ教百年來日本ニ於テ尊奉スル
ノ教法ト相容レサレハナリ抑モ公ハ早ク既ニ
此令ヲ下サント欲スル所ナリシモ西國ノ諸候
之ヲ信スル者多キヲ以テ未ダ猶豫シタルニ今
日ニ及テハ諸候皆膝下ニ屬スル所トナルヲ以
テ断然是ニ及ヒシナリ

慶長元年
十五百九十六年ニ太閤様殘酷ニ事ヲ處シ長崎
奉行治部之丞ニ命シテ異教徒ヲ磔ニシ十字架

上ニ縛シ。鎗ニ刺殺シ。其首ヲ刎スルナリ。佛朗
 西人五名イエソイテン三名ナリ。ハサルト氏説
 ク所ニ據レハ
 佛人トハ。コンサルヒユスガルシア。一印土人
 ポリプスデラスカサス。一墨西可人
 ベードルハ。アチスタアサレムミカールマルテ
 ーレデアギユイルレ。三佛人
 西班牙人トハ。ハウリユスミキヨヤンネゴト
 ヤコプスキサイ三人
 以上八名ナリ。

太閤様ハ惡逆無道人ノ為ニ大ニ心痛シ。千五百
 九十八年七月ノ季ニ於テ赤痢ニ罹レリ。初起ニ
 ハ。膽汁様粘液ニ少許ノ血ヲ混スルノミナリシ
 ニ。後ニ便中ニ腸ノ剥屑ヲ現シ。終ニ腸ノ肉質腐
 敗シ。敗臭アリ。且ツ劇痛ヲ發ス。八月五日必死ノ
 徴候ヲ現セリ。此諸徴アリテ。更ニ冷汗淋漓タリ。
 太閤様自ラ其不起ヲ悟ルト。尚異容ヲ示サス。
 政事ニ關涉スルヲ断テ。健全時ニ異ナル所ナシ。
 尤モ注意スル所ハ。秀頼ヲシテ職ヲ緝カシメ。シ
 トスルニアリ。熟考シテ。ハケ國ノ太守ニ。日本
 全

人望ノ帰スル大御所ニ依託頼スルノ外他策ナキ
 ヲ悟リ此人ニ非サルヨリハ誰カ敢テ能ク幼子
 秀頼ヲ補佐シテ全國ヲ鎮撫スルヲ得ニヤト此
 時大御所ハ伏水ニ在リ則チ竊カニ之ヲ招キ言述
ル所左ノ如シ余將方ニ死ニ瀕セリ然其果シテ之レ死免
 カル可ラサルヲ知ル凡ソ萬人皆然レハナリ唯
 大ニ心痛スルハ豚児僅カニ六歳未タ以テ直チ
 ニ日本帝將軍ト為スヘキニアラス後見人アリテ補
 佐シ教育シ十五歳ニ至ルニ及テ國事ニ當ラシ
 ムヘキナリ此今之事ヲ託スルハ君卿ニ非サレハ能ハ
 ス其異常ノ銳敏ナルヲ以テ此大事ヲ依頼スル
 ナリ則チ日本全國ト兒トヲ併セテ君卿ノ手ニ属
 セリ兒ノ十五歳ニ至及ルヲ俟ツヘシ從來深交ヲ
 以テ余君卿ヲ決シテ疑ハス然レモ更ニ今余カ兒
 ヲシテ君卿ノ二歳女ニ配シ誓儀ヲ結ハントス此
 ノ如クスレハ余カ後胤蕃殖シニ家ノ子孫永久
 保存スヘキナリ
 太閤様ノ聲音不明亮トナリ休止セサルヲ得ス
 是ニ於テ大御所之ニ答テ曰ク信長ノ弒サレ片
 ニ余ハ三河ノ守タリ後君ノ大位ニ登ルニ方テ

余ニ三河ノ外更ニ七國ヲ増加シ賜フ此八州之
 ヲ關東ト称ス是全ク君ノ恩惠ニ出ル所ナリ其
 他恩遇優渥ナリ余カ不^敏ヲ以テ君ノ過^愛賞^顧ヲ賜
 フ常ニ自ラ疑^危懼スル所ナリ余カ力^力豈之ニ堪ヘ
 ンヤ宜シク君若クハ君ノ族ニ返呈スヘキリ無
 能ニ此大賚ヲ受ケ之ヲ報謝スルノ道ヲ知ラ
 ス唯一命ヲ棄テ太閤様或ハ其後裔ノ為ニ盡ス
 所アラントスルノミ故ニ今宜シク全カヲ盡シ
 テ秀賴公ヲ補佐シ以テ君ノ意ヲ寧カラシメ
 トス上件恩惠アルノ外更ニ二事ノ添加スルア
 リ最モ驚駭スル所ナリ秀賴公ヲ補佐シ其成長
 ヲ待テ政權ヲ還附スル一又一二ハ賤女ヲ配シ
 皆嫁ヲ結フ一鳥ソ余カヲ盡サハルベケンヤ
 大御所説キ終テ流淚頻ヲ濕ス既ニノ新郎秀賴
 公及大御所ノ二歳女太閤様ノ病蓐前ニ列坐シ
 日本式ニ據テ^{結婚}嫁^縁ノ禮ヲ行フ^{將軍}帝亦常例ノ如ク
 其式ヲ行フニ萃美ヲ極ムト虽僅カニ一日ノミ
 此祝賀終ル後太閤様ハ諸公伯ヲ招集シテ誓約
 シテ曰ク衆皆秀賴ヲ補佐シ其十五歳ニ至ルヲ
 待ツヘシ其間諸事大御所ニ聽從スヘシ此誓約

書ニ各血判ス然レモ太同様ハ更ニ此約ヲ固定
セシカ為ニ各人ニ格外ノ恩賜アリ老衰ノ士亦
殷富ヲ致スニ及ヘリ大御所ノ外四大候ヲ擧テ
國事ニ當ラシメリ後最愛スル所ノ淺野彈正ヲ
加ヘテ五人トナシ執政ノ長タラシメテ諸人
ヲシテ誓約シテ秀頼成長シテ國事ニ當ルヘキヲ
待タシム其間諸事現今ノ状ニ據テシム絶テ也
違背勿ラシム

更ニ諸候合力一和シテ異議勿ラシメテ違背スル
者ハ其國ヲ奪フヘシトス諸候ヲ親睦同心ナラ
シムルハ婚姻ヲ結フニ若カストシ病蓐前ニ於
テ各々子弟婚嫁ノ式ヲ行ハシム貴族大身各家
相婚娶連屬ナラシム或ハ某家ノ女ヲ養テ養女
トナシ之ヲ某郎ニ配スルアリ
又大坂城ノ周圍ニ夥多ノ邸宅ヲ建築セシメ諸
候皆全家族ヲ擧テ烏ニ住居セシム此工作ニ從
事スルノ工人幾千人ナルヲ知ラス此意ヲ違ス
ルカ為ニ喪ヲ秘セシム蓋シ竊カニ謂ラク死後
ハ日本全國争亂ニ屬スヘシ故ニ工作ヲ急速ニ
シ諸公伯ヲ遠國ヨリ招集シ其威カヲ殺キ之ヲ

陪葬ニ入テ縛ニ就クカ如クナラシムルカト

太閤様永久不朽ニ保存セシカ為ニ生時ニ於テ

一廟ヲ建設シ精巧ナル一日本全國中ノ屈指ナ

リ其内ニ一金像ヲ置ク蓋シ肖像ナリ大理石ニ

テ築クノ塔上ニアリ塔下ニ遺骸ヲ埋葬セシム

火葬ニセサルナリ日本定例ニ戻レテ遺言ニ據

ルナリ抑モ此公少時代木ニ從事セシ片藤吉郎

ト称セリ後羽柴ト称シ將軍帝位ニ上ルニ及テ太閤

様ト称セリ然レテ終焉ニ臨テ死後神々ラシク

望ノリ則チ新八幡ト尊称セリ軍事ニ精好ナル

ヲ以テ新軍神ト為スノ意ナリ尊上ニ在テ夜着

ヲ被ヒ卧状ニテ葬ムル所ナリ

尚生ヲ存スルニ方テ伏水城ニ移居シ静養以テ

終ヲ執ラント欲ス是ニ於テ諸公伯及秀頼ニ告

別シ更ニ之ニ諭スニ自後大御所ヲ父ト称シ其

教訓ニ随フヘキヲ以テ更ニ宮女ニ諭スヲ亦

然リ近侍ノ者數人及醫生ノ曾テ病床ヲ離レス

ノ看護シ或ハ良法ヲ考案スヘキ者ヲ伴フニ過

キス此告別ノ後滿宮ノ人皆別ヲ惜テ止マズ蓋

シ此公ニ仕テ立身出世ヲ期スルニ自後復々相

見ルヲ得サレハナリ。啼泣號哭ノ聲城外ニ溢ル。其門ヲ密鎖スルモ尚然リ。既ニノ男門外子亦相傳フ太
岡様薨去セリト。

此風説沆傳アル。迅速火ノ如ク。隨テ草賊蜂起

シ。諸道通行シ難キニ至ル。彼此或ハ衆ニ居ルア

リ。是日本將軍帝薨去ノ片ノ禮ナリ。羅馬式ニ異ナラ

ス。猶カルジナリ。ルノ新法ヲ撰フ片ノ如シ。就

中大坂京都及伏水ノ人民騷擾スル。甚タ官

吏ノ力此騷擾ヲ制止スル。騷ワス。伏水城ノ周

圍ニ於テ諸候土木ヲ起シ。諸道ヨリ軍人ヲ招募

スルヲ以テ薨去ノ説愈盛大トナレリ。

世人太岡様薨去ノ説ヲ信唱スル。十日許ナリシ

ニ病勢稍減スルヲ以テ二候ニ意中ヲ語告シ之ヲ

大坂ニ送り大坂城建築ヲ督責シテ急速成ヲ監セ

シム。且伏水ヨリ大坂ニ移住スルノ諸候ニハ路

費トノ夥シク米穀貨幣ヲ賜與セリ。城圍ノ新築

三里ナルヲ以テ工人ヲ役スル幾千ナルヲ知ラ

ス。日々多賤ヲ賜フ。周圍ニ在ル所ノ商肆吏舎一

萬七千家以上。三日間ニ取崩サレヲ得ス。各々

二十四時内ニ平地ト為シ納メサレハ貨賤ヲ没

収スルニ至ル。為ニ新居ヲ營ム。一キノ廣地ヲ指
示ス。各標準アリ。右街ハ革匠ニ属ス。建築遲滞ス
ル者ハ地面及家屋ヲ失フヘシ。一家一棟ニ過ク
ルヲ得ス。土木ノ工晝夜ヲ論セス。是ニ於テ大ニ
城郭及市街ノ外觀ヲ壯大ニセリ。此工事ハ太閤
様薨去ノ説起リシヨリ。次第ニ減少シ。各人皆謂
ラク。此事能ク官吏ノ固守スル所ニ非サルヘシ
ト。然レ既ニ八月三日。四日ニ於テハ太閤様稍
輕快ヲ得タリ。是ニ於テ幼子秀頼ノ結婚ヲ急速ニシ。更ニ諸
候ト新約ヲ訂シ。各位階ヲ進メント欲セリ。然レ
氏八月五日。病勢愈急迫スルヲ以テ門戸ヲ堅閉
シ。薨去スルモ之ヲ門外ニ知ル勿ラシメントセ
リ。是ヨリ病勢愈險惡ニ進ミ。十四日既ニ生火滅
スルカ如キ。久シ。諸人皆以テ薨去トス。既ニノ
呻吟復ヒ蘊生ヲ得タリ。但シ暫時ニノ精神昏迷
シ。嚙語喃々條理ナシ。唯秀頼ヲ日本^{將軍}ト為スト
ノ語ヲ及復シテ終焉セリ。實ニ千五百九十八年
八月十六日ナリ。壽七十四歳。信長京都ニ於テ明
智ノ為ニ弒サルノ後。位^職ニ居リ。十五年ナリ。

然レ既ニ八月三日。四日ニ於テハ太閤様稍
輕快ヲ得タリ。是ニ於テ幼子秀頼ノ結婚ヲ急速ニシ。更ニ諸
候ト新約ヲ訂シ。各位階ヲ進メント欲セリ。然レ
氏八月五日。病勢愈急迫スルヲ以テ門戸ヲ堅閉
シ。薨去スルモ之ヲ門外ニ知ル勿ラシメントセ
リ。是ヨリ病勢愈險惡ニ進ミ。十四日既ニ生火滅
スルカ如キ。久シ。諸人皆以テ薨去トス。既ニノ
呻吟復ヒ蘊生ヲ得タリ。但シ暫時ニノ精神昏迷
シ。嚙語喃々條理ナシ。唯秀頼ヲ日本^{將軍}ト為スト
ノ語ヲ及復シテ終焉セリ。實ニ千五百九十八年
八月十六日ナリ。壽七十四歳。信長京都ニ於テ明
智ノ為ニ弒サルノ後。位^職ニ居リ。十五年ナリ。

^{智略}勇猛ヲ以テ戰勝テ位ニ登ルト^{畢見}。是却テ太閤様
 ノ為ニ荆棘ヲ開ク者ト云ヘシ。固ヨリ此ノ如キ
 ノ機會ヲ待ツ所ナリ。信長ニ三子アリ。伯ハホセ
 キユイサマナリ。信忠ヲ云。父ト同シク戦争闘死セ
 リ。火ヲ疑テ仲ハオシヤセンホレケドノニテ愚
 鈍ナリ。季ハ僅カニ三歳ナリ。太閤様之ヲ補佐シ
 シ位ニ登セリ。暫時^{但し自ラ}ニ大ニ威權ヲ得ルヲ以テ
 信長ノ子ノ美濃ニ在ル者ト和ヲ講シ終ニ位^{已レ}
 大職ニ當^レルナリ。
 然^此時^此大御所及諸候輩帝ノ薨去ヲ秘シ相誓テ
 之ヲ口外セス。近侍ノ人輕忽^{太閤}キ^之ヲ言フ者ア
 レハ則テ刑ニ處ス。此嚴刑アルヲ以テ諸人皆鉗
 黙スルヲ得タリ。然レ氏久シカラスノ此秘事世
 ノ知ル所トナレリ。諸候亦大御所ト相親和セス
 互ニ相及目スルニ至レリ。諸候大御所ノ命ニ隨
 從セス。終ニ大御所ヲシテ秀頼ノ後見タルヲ止
 ノ關東八州ノ守ト稱スルニ至レリ。五^執考政アリ
 テ相議シテ事ヲ執ルヲ以テ一人ノ為ス所必ラ
 ス他ノ四人ノ意見ヲ聞カサルヲ得ス。此ノ如ク
 スレハ大御所^慮ニ足ラスト謂ヘリ。

之ヲ口外セス。近侍ノ人輕忽^{太閤}キ^之ヲ言フ者ア
 レハ則テ刑ニ處ス。此嚴刑アルヲ以テ諸人皆鉗
 黙スルヲ得タリ。然レ氏久シカラスノ此秘事世
 ノ知ル所トナレリ。諸候亦大御所ト相親和セス
 互ニ相及目スルニ至レリ。諸候大御所ノ命ニ隨
 從セス。終ニ大御所ヲシテ秀頼ノ後見タルヲ止
 ノ關東八州ノ守ト稱スルニ至レリ。五^執考政アリ
 テ相議シテ事ヲ執ルヲ以テ一人ノ為ス所必ラ
 ス他ノ四人ノ意見ヲ聞カサルヲ得ス。此ノ如ク
 スレハ大御所^慮ニ足ラスト謂ヘリ。

日本人ハ異常ノ勲功アレハ則チ其名称ヲ變スルヲ習慣ス。故ニ大御所ハ家康ト變シ後又内府様ト稱ス尚別ニ名アリ

太閤様ヲ神葬ニス廟堂及肖像ハ既ニ^異構造スル所ナリ遺骸石室ニ納メ之ヲ土中ニ埋ム是ニ於テ新八幡ト稱ス此ノ如ク愛名シテ神ニ異入スルハ往時希臘及羅馬ニテハ普ネク為ス所ナリ故ニロミユリユスヲキユリニユスユノヲマチユタレウコタレチアルビユネアレリヒナラモレダヲネノシスシルモヲマリカメルシリアチホラレアヲ神母イダーダヲシンデーノダヒレチヘシンニエンチアアセレラベレセインチアト稱スルナリ

將校ノ軍効アル者ヲ追尊シテ神ト為スハ日本ニテ今始テ^{之ヲ創意シ}思付タルニハアラス此風習ハ二千年前ヨリ既ニ存スル所ナリ國父ラクタンチウスセルミアニユス以テ之ヲ証スルニ適セ

不丹煉ニノ昏迷ナル人ヲ神ト名ケ拜祈スルハ不注意ニノ事理ヲ解セサル者ト云フヘシ誰ヲカ神ト為シ尊敬スヘキヤ則チ大ニ有効ナル王^公候記憶スヘキ勇猛ノ事業ヲ成セシ人又藝術ヲ^教度明スルヲアリテ大ニ世人ノ愛惜スル人ナリ

アウギユステ

アウギユステレシハ大神ナリ是シセロ匿名ニ
テユピーテルユノサケユルニユスヒユルカニ
ユスヘスタ及他ノ諸神ト共ニ世界ノ各部及元
素ヲ度明シタル人ナリトスルナリ

希臘記者

希臘記者ジオドリユスシキユリユス更ニ曰ク
カユスユリウスカーサルハ其軍効アルカ為ニ
神ト称セラルト其緬位ノアウギユスケユスハ
之ヲ進テ星ノ上ニ在ラシム羅曲詩人マルキユ
スマニリウス亦之ニ關セリ其詩意ヲ阿蘭語ニ
譯スレハ

彼今神トナル大ニ神徳アリ高ク上テ星
ニ連ス而ノ天ニ存生ス羅馬國ハアウギ
ユスケユスノ膝下ニ在リ

プリニ

プリニユスハ其効ヲ論シテカイサルトラヤニ
ユスヲ賞ス其先代アウギユスケユスヲ天ニ進
メ以テ尊敬スヘキ神徳ヲ具セリトスレハナリ
ネロハカラウジウスヲ神ト為ス但シ之ヲ嘲弄
スルナリケケユスハヘスバシヤトシテ神ト為
シドミケアーシハケケユスヲ神ト為ス但シケ
ケユスハ神ノ子ニノドミケアーシハ其弟ナレ

ハナリ汝ハ汝ノ父ネルヲハテ星ノ上ニ養スヘ
キナリト

其他希臘ニテハ既ニ死シタル人ヲ不死ナリト
ノ尊敬スルヲアリ故ニラセモデニール人ハフ
ガノムノシヲ尊敬ス是トロイ、シノ十年ノ
戦争ニ大將タレハナリ其第ノネラウス亦然リ
是スパルターレ玉ナリ又アルカジールハアリ
スタウスヲ尊奉ス蓋シ屍体ハ臭氣ヲ放者ナルニツ
ヲ防クヘキヲ始テ教ヘタレハナリ

如クリールノアサポレヲ神ト為スハ大ニ
驚クヘキナリ是悪性ノ人ナリ然レ氏鳥ニ人語
ヲ教フルノ術ニ巧ミナリ則チ其術ヲ以テ鳥ニ
教テブサボニハ神ナリトノ語ヲ習ハシム既ニ
ノ其鳥習熟スルニ及テ之ヲ放チ相倣フテテ衆鳥
之ヲ擬スルニ至ル各地ノ人氣中鳥聲歎語ヲ為
スヲ聞ク終ニ世人ノ評判トナレリ抑モ鳥ヲシ
テ外人語ヲ習ハシムルニハ多クノ辛苦ヲ要スル所
ナリカルタギニトシノ一將軍ハンノ後此秘訣
ヲ授リ之ヲ試ミタリ則チ鳥ヲシテハンノハ神

ナリトノ人語ヲ為サシメント
アリユアニスノ証スル如ク終ニ其意ヲ達スル
ヲ得サリシナリ

アルギヘルスハメルセウスヲ神ト為ス是其軍
効赫々タレハナリユピダウリユスハアスキユラ
ピウスヲ尊奉ス是醫術ニ於テ多ク秘訣ヲ發明
シタレハナリ往時全希臘人皆之ニ倣フ又羅馬人
モ大ニ之ヲ尊奉シ羅馬府外ニ於テ為ニ一堂ヲ
造レリ

アテニーンセルハ預言者アムピロキユスヲ尊
奉ス其寺ハリヒウスノ説ノ如ク極テ奮シ近傍
ニ噴泉及池沼アリ景色極テ佳ナリ更ニ彼此ノ
由縁アリテアテニーン諸王ヲ皆神ト為ス故ニ

此部位ヲ擴張シテ天ニ達セシム蓋シトリプト
レミユスノ為ニ耕耘播種スルナリエリクトホ
ニウスノ為ニ四馬ヲ具スルノ車ヲ捧クエレク
テウスハ其女ト共ニ星ノ上ニ達セリ何トナレ
ハ其父デルビセ妖言ヲ信スレハナリトラシ
ルエウモルビユスニ及スルアラニーン人ニ預
言シテ曰ク若シ王其女ヲ牲ト為サハ意ヲ達ス

ルヲ得ヘシト是ニ於テ強テ其女ヲセヤシ
テユス村ニ於テ父ノ為ニ殺セリ
又テセウスハセレテヲ領スル王ミノスノ一將
タウリユスニ對戰シテ大ニ勇威ヲ著シタリ故
ニアテネンノ中部ニ於テ一堂廟ヲ築キ是茲ニ其遺
骨ヲ埋メテ之ヲ尊奉セリユテリユス亦同采譽
ヲ得タリ蓋シペロボレホシールノ陣中ニ乞巧
ヲ擬シテ潛行シ其軍略ヲ探偵シタリ是其死ヲ
以テアテニール人ニ勝利ヲ興フヘシトノ預言
ニ從フナリ何トナレハデルピセ妖言ニハ若シ
アテニシール王ヲ殺スニ非サレハペロホンネ
シールス勝ヲ得ストスレハナリ故ニアウギユ
シテニールノ語ナリアテニール人ゴトリユスヲ
神トスルナリ犠牲タルノ功ヲ賞スルナリ
テバネル人ハ其王リベルヲ神ト為ス是葡萄ヨ
リ酒ヲ搾ルヲ割見意シタレハナリ又其伯父イ
ノ其子ノリエールテノ二人共ニ神事セラル蓋
シ海中ノ高礁ヲ碎キタルノ功アレハナリ此ノ
如キ習慣ハ日本ニモ存スル所ナリ則チ日本ニ
テ神聖ナリトスル所ノ者ハ河彌陀釋迦及他ノ

日本人ノ重石ヲ抱テ水中ニ飛沈没入ル者ヲ云フ
ナリ前ニ説ク所ノ如シ

又往時ハ殊ニ泥平日本土ジ波斯ゴシヤト及印土ニ於テ
ハ苟クモ惡事ヲ行ハサルノ歷代ノ王皆其生時

或ハ死後ニ於テ之ヲ神ト爲スノ習俗慣アリヤレ
歴山王キサシンゲルゲボローテニ追從スルセレオ曰ク

羅典ノ歴史家キユルチウスノ説ニ波斯ヤ人
ハ膏ニ神聖ノミナラス更ニ諸王ヲ皆神ナリト

ス何トナレハ政令宜キ得ルハ安全ヲ得ル所以
ナリヘルキユレス及其父バクキウスモ同時世

ノ人ノ怨恨ヲ解クノ前ニハ神ト爲ルヲ得サリ
シナリ後世ノ人當時ノ人ヲ尊テ神ト爲ス一キ

ナリト
王ヲ尊テ神ト爲スハ方今尚タツテニスニ於テ

然ル所ナリタツタレ一木ニノ第四部ハカタヤ
則キタイナリ其首府カムバリユハ大ナルカム

スノ住所ナリ此地ニハ緻密ナル絹ヲ販賣ス一
日モ休業スル一ナシ若シ一日之ヲ怠レハ数千

輛ノ車ニ絹ヲ積テ市街市上ニ山ヲ爲スニ至ル一シ
キタイハ全國ヲ分テ七部ト爲ス則チカミユル

エンギミエルクインジユテンダクテト此地
 ニハ貨幣ニ換ルニ珊瑚ヲ以テスカラサン是出
 産ニ就テ驚怪ス一キ風俗アルヲ以テ有名ナリ
 則テ婦女子分境ヲ産スレハ其夫辱ニ在ルト四十二
 日ナル一ケレハナリ及タンギユテナリ此地ハ
 千年前ニ於テ早ク既ニ印刷術ヲ知ル羅馬僧ヨ
 アングリユニルハアノナシウスキルセリユス
 ノ如クタンギユテヲ旅行シテ支那ニ赴ケリ其
 王タテタルス之ヲテハト称スニ謁シテ親切ニ饗
 應セラレ命セラレタルトアリハンノ肖像ナリ
 是往時ノタンギユト王ニノ十四子父ナリ極テ善良ニノ且政事ニ熟
 煉スルヲ以テ往國人ノ大ニ尊敬スル所ナリ又テハレノ肖像ヲ寫
 シ取ルトテ命セラレタリ此二人四角ノ臺上ニ半身ヲ現スハンハ
 顔色薄藤色ナリ髭栗褐色髪ハ灰白色ヲ交シ眼目突出シ頭上
 ニ帽ヲ戴ク但シテハ顔貌テ壯ニシ髭ナシ又髪ヲ剃除ス此二像
 ノ前ニ三燈ヲ掲ク

羅馬人ノ七帝ヲ送テ昇天セシムルノ所業殊異頗ル奇異ナリ火葬ノ火ヲ
 保持スルトテ天幕ノ如クキヲ以テニシ黄金象牙及貴重ナル粧飾ヲ設ク上端ハ
 尖リ高サクニケレテナラシム其上ニ鸞ヲ置ク各廊下ニハ香料ヲ
 薫ス最下層ニ臥床ヲ置キ金彩紛乱セル錦綉ヲ被フ其上ニ帝ノ肖像

ヲ置ク執政及諸貴官各卧床ヲ荷フテ火葬所ニ送ル神歌ヲ唱ヒ教
肅シテ事ヲ執ル詐リ怒テ火ヲ天幕ノ周圍ニ放ツ煙ト焰トノ為ニ
就鳥飛テ高ク天ニ至ルヲ以テ靈魂神ト為ルノ徴トス體外ノ諸
物悉ク灰燼ト為ス之ヲ公告シテ帝ノ神トナルヲ明ラカニス
古来ノ習慣ニ據テ人民奉テ太閤様新八幡ト称シ軍神ニ奉
事セントスルニ諸執政及内府様各同心協力ハハキニ忽チ
相分離セリ執政五人ハ同心一和シ内府様ハ關東ニ歸レリ是前ニ
説クカ如シ此紛乱ハ兵力ニ非サレハ判決スルヲ得ス之ニ於テ
東西共ニ兵ヲ養ヘリ

執政ハ一途ニ京都ノ通路ヲ塞クヲ勉メ伊勢及
美濃ニ人数ヲ招集セリ蓋シ此ニ洲ハ尾張ニ接
近スルヲ以テハナリ内府様ノ領地ヲ侵掠セシハ為ナリト
曾テ美濃ニ三城アリ内府様ニ襲ワル所ナリ更
ニ堅城岐阜アリ是中納言殿ノ住スル所ナリ此
人二十ニ歳ナリ太守タリ之ヲ領ス治部之丞兵
七千ヲ附シ更ニ執政ヨリ頻ニ助勢ヲ送レリ蓋
シ相共ニ力ヲ合セテ尾張ヲ陥レ且ツ内府様ヲ
捕ヘントスルニアリ
然レモ執政軍命令遲淡スルニ乘シテ内府様ハ二
萬五千ノ兵ヲ率テ急速ニ岐阜城ニ迫レリ此城

ハ高山ニアリ^則多勢ヲ山後ニ伏^セ七百人ヲ以テ
岐阜城ニ密着セリ。城主中納言殿勇ヲ奮テ敵ニ
當ルト。虽終ニ支フルヲ能ワス。漸次ニ退縮シ。中
納言殿ハ後隊ノ中ニ入ル。此城強敵^ヲ當ルヲ能
ワス。更ニ背後ノ敵^{共相連合}ヲ受テ終ニ一團トナルカ故
ニ創傷ヲ蒙ラサル者ナシ。中納言殿辛クシテ僅
カニ數人ヲ携テ塔^増ニ上ル。復タ防禦スルノ策ナ
シ。終ニ捕^橋ニ就キ生死^命ヲ他ニ任セリ。
戰勝者ハ降人ヲ尾張城ニ送り。岐阜城ニハ強兵
ヲ置テ之ヲ鎮ス。而ノ此捷報ヲ治部之丞ニ報^知
ス。路上内府様ニ降ル者二千。其後更ニ千人。此
事ヲ敢テ治部之丞ニ告ル者ナシ。
此事^ハ聞テ激^激薩摩侯及^{小西}カウギエス^テ
摂津守殿兵ヲ治部之丞ニ進^ハ内府様此事ヲ探
偵シ。則テ兵ヲ^{餘方}河畔ニ進^テ。彼ノ進軍ヲ遮
ラシム。内府様ハ前岸ニ掲クルノ旗ヲ見テ。兩候
ノ下ニ更ニ新兵ヲ増加スルヲ知ル。是ニ於テ兵
ヲ止メシム。又障スルノ状ヲ示ス。治部之丞少許
ノ兵ヲ以テ烏ヲ能ク。此強盛ナル兵ヲ侵スヲ得
ンヤ。

属スルアリ。或ハ内府様ニ属スルアリ。或ハ中立
 スルアリ。有馬候及大村候ハ始執政ニ属シタル
 ニ兵ヲ京都ニ送ルヘキノ命ヲ得テヨリ内府様
 ニ附セリ。執政ハ各種ノ軍兵ヲ日本全國ニ撒布
 シ。彼此内府様ニ属スルノ諸候ヲ侵サシム。然レ
 此其方思慮向達ノ難キヲ以テ全軍ヲ一集シ平野ニ
 於テ一戦ヲ決セントス。其地ハ則美濃トス。速カ
 ニ来リ會スル者八萬人。謂ラク少時間ニ内府様
 ヲ潰爛ス。一シト蓋シ其勢僅カニ三萬ナレハ十
 リ執政ノ命令一定止シカラス。評議後ヲニ時ヲ費ヤ
 スヲ以テ各將意ヲ異ニシ。援會ヲ失シ。三十日間
 尚此弱敵ヲ衝クヲ得ス。抑モ措置當ヲ失スレハ
 ナリ。則チ其子内府様ハヲシテ一隊ノ軍ヲ率テ景勝キ
 子秀康ニ當ラシノ其他ヲ尾張ニ向ハシム。此地
 ニハ京都及他地ヨリ多人集會シ。既ニ五萬ニ及
 フ所ナリ。此勢ハ皆以テ執政ニ抗指揮スル所ナリ。
 既ニノ戦争始マレリ。太閤様ノ妃筑前ノ國ノ甥
 ナル中納言殿曾テ岐阜ノ隘ル中ヨリ尾張ニ在
 リシニ今城ヲ出テ勢ヲ率テ内府様ニ帰シ。次テ
 他ノ三將亦之ニ隨ヘリ。大ニ執政ノ前軍ヲ破レ

リ是ニ於テ陣中大ニ紛亂シ皆曰ク憂心者アリ憂
 心者アリト全軍錯亂シ制止スルヲ能ワス隊長ハ
 其隊ヲ整頓スルヲ得ス或ハ簇ヲ離レ或ハ足相
 踏ミ前軍既ニ潰テ中軍ニ入り相紛亂シテ序次
 ナシモ利殿ハ左翼タリシニ戰ハスシテ退キ内
 府様ノ軍勢ノ進路ヲ開ケリキ後軍ハ退去セリ茲ニ於テ
 時間ニ於テ全事終レリ則或ハ鬪死ス蓋シ敵手
 ニ死スルアリ自裁ニ由ルアリ免カル者サナリ
 或ハ捕ハルアリ治部之丞及ヒハウギ西キエスナリ
 摂津守殿亦降人中ニアリ蓋シ甲ハ悻怯シテ
 自裁スルヲ渴スヒハ信奉スル所ノ耶蘇教徒ニ
 於テハ決シテ此ノ如キ自盡ヲ許サハレハナリ
 否ラサレハ必ラス抜刀以テ自ラ割腹ス一所ナ
 リ
 此ノ如キ大捷ヲ得ルモ内府様決シテ由斷セス
 戰場ニハ六萬ノ屍散亂セリ誰カ復タ能ク之文障
 スル者ナシテ於テヤ自ラ美濃ニ赴キ更ニ一軍ヲ近江
 ニ向ハシム是其堅城澤山ハ治部之丞ニ属シ曾
 テ其身ノ住居セシ所ナリ城内ニテハ此敗報ヲ
 聞キ且内府様ノ来ル一キヲ知ルヲ以テ之ヲ拒

内府様毛利殿
疑

毛利大軍

ク所以ノ策ヲ知^{求ムルニ}ラズ其免カル可ラサルヲ知ル
 ヲ以テ謂ク乱軍中ニ死^セズヨリハ寧ロ自裁ス
 ルノ潔ニ若カスト然^{但シ}此ノ如キ残酷ナル所
 業ハ日本人ノ勇名ヲ求ムルニ出ル所ナレバ實
 ニ誤慮ト言ヘキナリ此時城主内府様ノ前軍ニ
 向テ仇ソ所有スルノ珍器財寶ヲ寄贈シ久シク
 貯テ損敗スルノ勿ラシノ自ラ治部之丞ノ妻及
 己ノ子輩ヲ午月シ終ニ自^{親シク}割腹セリ此城ヲ内
 府様ノ用ニ供セサラシムル為ニ火ヲ四方ニ縱
 ケ灰燼トナシ貴族ノ遺骸ハ皆之ヲ火中ニ投シ
 内府様ノ未タ至ラサル前ニ於テ此事ヲ成セリ
 時ヲ費ヤサスシテ全城灰燼トナレリ毛利殿ハ
 左翼ニアリテ戦ハスト虽九ヶ國ヨリ新兵ヲ募
 集スル所四萬ニ及フヲ以テ恰モ黒雲ノ浮フカ
 如ク忽チ非常ノ雷電ヲ發動スル^ヤ圖ル可ラス
 其成果及覆如何ヲ預定ス可ラス然ルニ此二事
 ヨリシテ東軍全勝ヲ得ルニ至レリ
 内府様ノ最モ注意スル所ハ毛利ノ軍勢ノ外更
 ニ大阪城ナリ是日本無二ノ堅城ナリ柳太閤様
 ノ大ニ^{加心}テ盡クノ築ク所ナリ糧食軍器一モ缺

ク所ナシ。又別ニ第三ノ難事アリ。若シ毛利殿此
堅城ニ據ル。アラハ全國ノ富ヲ有シ。諸候ノ人
質ヲ握リ。内府様ノ人質ヲモ。又太閤様ノ子ナル
秀頼ヲモ。手中ニ執ル。一シ。且此城内ニハ。食料軍
器充備スルヲ以テ之ヲ支フル。一。致年ナルモ。疲
弊スル。一。勿ル。一。キナリ。

然ルニ。毛利殿ノ所業大ニ之ニ異ニシテ。一物ヲ
モ掠ノス。ノ。城ヲ引渡セリ。則テ自ラ傍觀者トナ
リテ。大坂外ニアル別邸ニ居リ。終ニ自國ニ歸リ。
敵對セサルノ意ヲ示シ。敢テ恩惠ヲ望マス。

内府様ハ。大坂城ヲ陷ル。一。意外ニ容易ナルヲ怪
シム。此城ト共ニ全權總テ己ニ歸セリ。全國ノ人
質モ。貨財モ。秀頼尚且死^{生命}ヲ委セリ。全國誰カ敢
テ帝位ニ^{將軍}奪ルヲ可否スル者アラニヤ。秀頼ヲ退
ケ。自ラ太閤様ノ位^職ヲ緘クモ。容易ナリ。但シケシ
ク。意ヲ置ク。一。キハ。景勝^{景勝}ナリ。是。関

東ノ末端ニ在テ。尚執政ノ為ニ兵ヲ養フ所ナリ。
又薩摩候ナリ。最後ノ野戦ニ於テモ。其剛勇ヲ知
ル。一。シ。蓋シ周圀ノ打ツ所タルモ。能ク之ヲ防キ
殿^{タリ}ハナリ。諸軍敗走シテ。復タ如何トモ為ス。

日本國內府様
毎二降

可ラサレニ及テ尚進テ背ヲ見セス六十人ノ猛
兵ヲ率テ一線ノ血路ヲ開キ大敗ニ退キ六百
人ヲ以テ尚内府様ニ抗シ暫時之ヲ防キ船ヲ
艦シテ薩摩ニ歸レリ蓋シ大敗ヲ距ル一
百五十里ナリ是ニ於テ兵ヲ養ヒ敢テ内府
様ニ降ラス怯懦ナル毛利殿ノ命ヲ助ケ
之ヲ隠所ヨリ尋ネ出シ其領地九ヶ國中
銀鑛多キ七ヶ國ヲ奪ヒリ是ニ於テ關東
八州及毛利殿ノ七國及太閤様ノ舊領
總テ我手ニ属セリ

六

中納言殿ハ一千六百年ノ有名ナル戦争ニ於テ

備前山

執政ト内府様トノ間ニ在テ別軍ノ如ク
ニノ終ニ内府様ニ歸シ為ニ全勝ヲ得タ
リト虽此降將ヲ賞セスシテ却テ其
領國筑前ヲ奪ヒ之ヲ高野ニ放ツ是
貴族ノ牢獄ナリ蓋シ坊僧興山主モクシシコ
木食ノ大ニ威權ヲ振フ所ニテ三年前
ニ於テ關白殿ノ非業ノ終焉ヲ為セシ
地ナリ中納言殿ト共ニ筑前ニ在ル諸
貴族及ヒ近臣皆日本ノ習慣ニテ妻子
ト共ニ裸體ニテ土手ノ上ニ置シリ梟首ヲ
斬罪ニ處セテシタリ

一 共ニ 職 業ニ 関スル 土ニ 置ル
 貴 族 及 立 身 者 日本ノ 皆 貴ニ 関ス
 中 階 級 者 共ニ 階 級ニ 關シ
 二 茲ニ 願 白 煙ノ 非 業ノ 發 達ニ 感ス
 本 身ノ 大ニ 樹 立スル 所ニ 在リ 三 羊 産
 貴 族ノ 幸 福ニ 蓋シ 然レ 至 手ノ 一
 財 國 際 商 務ニ 參 与スル 高 理ニ 在リ 且
 リ 十 五 年 此 等 財 務 貴 族ノ 實ニ 其
 二 七 年 茲ニ 内 務 部ニ 職 員ニ 充テ 全 體ニ 對シ
 府 政 一 内 務 部 員ノ 間ニ 在リ 策 一 必

(一)

内 府 様ハ 日本 全 國ヲ 掌 握セリ 然レ 全 勝ヲ 得
 ルト 虽 日本 尋 常 習 慣ノ 如クニ 他ヲ 殲 盡スル 遺
 村 落 市 街ヲ 蹂 躪スル 等ノ 事ハ 絶テ 之ヲ 行
 ハス 此 等ノ 惡 業ハ 戰 争ニ 常ニ 免カレサル 所
 ナリ 何 是 故ニ 今 日ニ 及テモ 尚 無 數ノ 市 街 或
 ハ 全 部 或ハ 一 部 家 屋 燒 滅 或ハ 潰 崩 人 民 離 散ス
 ルノ 痕ヲ 存スル 所アルハ 十 九ニ 一ニ 然レ 内 府 様ハ 撫
 育 仁 愛ヲ 主トスルヲ 以テ 降 人ヲモ 許シテ 敢テ
 妄リニ 殺スルナシ
 唯 其 巨 魁 三 人ヲ 誅 戮シ 而 他ハ 皆 之ヲ 許ス 近

攝津守殿ハ刑ニ臨テサシモ恐ルノ状ナシ他ノ

江ノ太守治部之丞是執政ノ軍ヲ主裁スル所ナ
リ肥後羊國ノ主攝津守殿及毛利殿ノ主謀ナル
安國寺惠瓊此人キ才是ナリ甲斐守ニ捕ハレ其始ハ身
位ニ應シテ饗應サレ其暴動ヲ防クニ護兵ヲ以
テシ次テ苦責シ終ニ大段ニテ堅牢ニ入ル是ニ
於テ死刑ヲ申渡サレタリ瘦馬ニ乘リ大段市中
ニ廻行シ更ニ二輪車ニテ京都ニ送ラレ衆人群
集中ヲ通過セリ群人中或ハ貴人ノ刑ニ憂セラ
ルヲ痛歎スルアリ或ハ難法人ヲ詈罵嘲弄シ且
耻辱ヲ加フルアリ第一治部之丞第二安國寺惠瓊
ギ才最後攝津守殿ナリ各車ノ前ニ喇叭ヲ吹キ
高音以テ此執政ノ國家ヲ亂サントスルヲ憂刑
スルヲ鳴ラスナリ
攝津守殿ハ刑ニ臨テサシモ恐ルノ状ナシ他ノ
二人ハ大ニ憤怒シテ冤ヲ訴慶刑當ヲ失スルヲ述
テ刑場ニ臨ムニ及テ衆僧來リ會シ罪業消滅シ
テ彌陀ノ傍ニ往生セシテ誓願ス唯津守殿ノ
ミハ僧ヲ辨ス蓋シ耶蘇教徒タルヲ以テ此ノ如
キ所業ヲ厭フナリ此刑坐ニ就クニ方テ大和尚
出現セリ此僧ハ貴人ノ慶刑ニ非サレハ敢テ容

石田三成
安國寺惠瑠
刑之

元

易ニ此ノ如キ場ニ臨ム人ニアラス隨從スル衆僧ヲ隨リ
皆釋迦ノ經典ヲ手ニス誦讀終リ治部之丞及ヒ
安國寺惠瑠ア國寺口クギオ刑セラルノ後經典ヲ口ニ接ス然
レハ津守殿ハ大和尚ヲ厭フテ魔ト為シ耶蘇教
式ニ據テ懷中ヨリ基督及瑪理ノ精畫ヲ出ス是
葡萄牙王カクリナ第五世カールヨリ曾テ教
師ニ託シヲシテ彼ニ寄贈セシ所ナリ此画像ヲ両手ニ
捧ケ之ヲ熟視シ禮拜シ頭ヲ延テ刑ヲ待ツ刀ヲ
震フ一三回ニノ身首處ヲ異ニセリ他ノ二人モ
處置ノ狀相同シ其屍ハ日本式ニテ直チニ之ヲ
火葬ニスルナリ但シ津守殿京都ニ在ル耶蘇教
徒ノ請フ所ニ任セテ之ヲ衣ニ包ミ當時羅馬教ニテ
行フノ鄭重ナル式ニテ葬レリ

津守殿

津守殿ニハ一子アリ甫テ十二歳ナリ毛利殿之
ヲ廣島ニ置キ其臣僕ト共ニ任意在ナラシメリ然
ルニ津守殿刑ニ就クノ後數日ニメ己ノ居ル所
ノ大阪ニ呼寄寄セントス之ヲ警固スルノ獄卒毛利殿
ノ死刑ニ處スヘキノ意ヲ漏セリ兎之ヲ聞テサ
シモ驚懼セス死ヲ望メリ曰ク父既ニ死ス余豈
ニ何ソ生テ盜シヤ嘗テ之ヲ耶蘇教徒ニ聞ク相

共ニ死シテ同シク天堂ニ住センノミ此身彼地ニ至レハ父ニ面會スルヲ得ヘシト而シテ速カニ大政ニ奉ラス毛利殿竊カニ之ヲ殺サシノ其首ヲ内府様ニ贈リ以テ感賞ヲ得ントス然ルニ内府様ハ毛利殿ノ豪置ヲ喜ハス謂ク其子父ノ死ヲ聞テ自ラ割腹セハ可ナリ竊カニ之ヲ殺スハ大ニ他ノ恨ヲ引クヘキナリト

内府様ハ此三人ノ巨魁ヲ刑スルノ他ハ總テ之ヲ許シテ其死ヲ免カレシム寛法ヲ以テ事ヲ處置セリ抑モ日本刑法ニ據レハ津守殿ノ妻子ハ死ヲ免カレス他ノ己ニ敵セル類族モ皆然ル一キ所ナリ然ルニ皆措テ之ヲ問ハス

明石掃部ノ如キモ死ニ處セサルナリ戦争ノ始ニ於テ西軍中最モ勇猛ナルハ此明石掃部ト薩摩候トニノ大ニ東軍ヲ悩マス所ナリ何トナレハ全軍降ルニ方テモ明石掃部ハ尚屈セス周圉ノ敵軍ニ向テ勇ヲ奮テ之ニ當リ敢テ死ヲ顧ミス謂ラク敵手ニ降テ生ヲ盗ムヨリハ寧ロ死スルヲ勝レリト然レモ奮戦ノ未終ニ甲斐守ノ指揮セル陣中ニ入レリ甲斐守ハ其衣服及具足

ヲ見テ其^舊老^友明石掃部タルヲ知り其兵卒ニ令
 シテ之ヲ捕ヘシム兵士其^隊首長ノ命^{ニ應}テ明石
 掃部ヲ殺サントセシニ此事熱淚ニ堪サルナ
 リ則チ曰ク親友ヨ余今^汝ト相敵スルハ止ムヲ
 得サル所ニ悲歎ニ堪サルナリ日本全國ノ大
 戦争ニ互ニ相殺傷シ^汝ハ執政ニ加擔シ余ハ
 内府様ニ隨從シ各守ル所アリテ共ニ名ヲ競ヒ
 功ヲ争フニ當テ勝敗一ナラス固ヨリ免カレサ
 ル所ナリ明石掃部ノ今日我カ手ニ未ル^亦抑
 モ致ナリト明石^汝疥癬シテ短息ナリ應答言語ヲ
 為ス能ワス既ニノ僅ニ低聲唇語シテ曰ク速カ
 ニ我首ヲ截テ汝ノ職務ヲ全フ^{シホ}ト此刀ヲ一
 揮シテ余カ生命ヲ絶チ併セラ國家ノ争亂ヲ一
 掃スヘシト然レモ甲斐守ハ之ヲ殺スニ忍ヒス
 ノ其死ヲ宥セリ

激戰中ニ於テ丁寧ナル^持響應ニハノルマシデ
 ノ一例アリ^維ル^辛レハ第一世ハノルマンジセ
 ルトフロベルト及アルロワテペルセルス^女ノ
 子ナリ^口ベルト一村ヲ經過セシ片寺院ノ^某踏
 舞^會ニ於テアルロフテ懷^密姓セシナリ四子ヲ設ケリ

ロベルト^リカルド^ウセル^ム及^ヘン^ツキナリ^マ
クチルト^ノ生^ム所^{ナリ}是^ヲラームセガラーフ
ボウテウセル^ノ女^{ナリ}更^ニ五^女アリ^ロベルト^ハ
ウ^維ル^廉ノ長^子ナリ^第一^世佛^朗西^王ピリツプ
スニ挑^撥セテレテ^ノルマニデー戦争ヲ起セリ
其父^ウル^廉ハ英^吉利ヲ奪^ヒ取^リ大^ニ満^足セ
リ然^レ氏^執拘^{ナル}子^ノ為^ニ自^我意^任セテ自^在ニ
スルヲ得^ス是^ニ於^テ船^ニテ^ノルマニジ^ニ赴
ケリ遂^ニ父^子戦^争ヲ構^ノ兩^軍原^野ニ相^臨ミ對
陣^ス戰^鬪頗^ル劇^シ第^一戰^ニ於^テ指^揮官^相戰^セ
兩^軍相^亂レ遂^ニ父^子相^戰フ^ニ至^レリ其^子ハ父
ヲ馬^{ヨリ}卸^シ其^臂ヲ傷^レリ而^シ兩^人共^ニ全^身
軍^装ヲ脱^{スル}ヲ以^テ互^ニ誰^何タルヲ悟^ラス然
レ氏^ウセル^ム氏^ハ落^馬スル中^ニ叫^喚セリロ
ルト氏^其叫^喚ノ聲^音ヲ聞^テ父^{タル}ヲ知^レリ既
ニノ果^シテ父^{タル}ヲ知^ルニ及^テ鞍^{ヨリ}飛^ヒ下
リ地^上ニ伏^シテ其^謬誤^ヲ謝^ス是^ニ於^テ戦^争則
チ鎮^止ス然^レ氏^ロベルト氏^後尚^安全^無難^{ナル}
ニアラス許^多ノ紛^亂ノ後^ワル^レス^ニ在^ルカル
デー城内^ノ牢^ニ入^レラレタリ第^一世^英吉^利王

内藤康高
行

ヘンリキハ其幼子二人ヲ扶助セサリシ。暴人口
ニルト氏ハ後存生スルヲ二十四年ナリ。

内府様ハ執政ノ軍ニ向テ戦功アリシ諸人ニ褒
賞ヲ行フ。或ハ小候ヨリ大候トナルアリ。或ハ大

小ノ國土ヲ賜フアリ。日本全國大ニ顛倒セリ。某

候ハ市街及村落ヨリ新領地ニ轉移シ之カ為ニ

住人其地ヲ退テ他所ニ遷居スルアリ。總テ内府

様ノ指揮ニ據ル長岡ハ丹後ノ一小部ニ代テ豊

後ヲ得。福島ハ廣島城及其屬地ヲ得。貴族ニ出ル

ノ某ノ耶蘇教徒ニ美作ニアル所有物ヲ賜フ。盖

シ勇兵ヲ送リテ加勢セルヲ謝スルナリ。又庄計

殿ニ因テ^{宇土}城内ニ捕ハレタル五人ノ耶蘇教

徒ヲ免シテ其罪ヲ問ハスノ隨意ニ長崎ニ赴カ

シ。官兵衛殿ノ子甲斐守殿ヲ奉テ筑前ノ太守

ト為セリ。

争亂鎮靜スルノ後内府様ハ日本全國ヲ指揮ス

ル。秀頼ノ後見タル時ハ如シ則伏水城ヲ駿河

ニ移セリ。而ノ内府様ノ称ヲ變シテ御所様ト称

セシム。千六百十一年。政羅巴諸國ヨリノ使節皆

此地ニテ謁見セリ。葡萄牙及^{西班牙}カスチリア人。

伏見

ハ誤テ公ヲ執拘ナル人ナリトセリヨコブスベ
キス氏及べーテルセルゲルネブーシ氏ハ帝^{將軍}ニ
拜謁セリ其進呈品モ^{嘉納スル所ナレリ}則チ日本
ニ請願スルノ諸件ヲ書記シ之ヲ執政コセキユ
エンドノ手ニ託シ江戸ヨリ歸来ノ時ニ方テ
其許可ヲ得ン^テ望ノリ故ニ江戸ニ在ル幼君
ヲ祝スルニモ不都合勿ラ^ンテ望ノリ蓋シカ
^{呂宋}不^チリ^アレ^ン使^郎ハ^曩既ニ其父君ニ代テ幼君ニ
向テ祝賀セシ所ナリ

此年八月十八日途ニ就クコセキユエンドノ緊
要諸件ヲ整頓セリ然レ^ニ阿蘭使節駿河ヲ出立
シテ日午江尻ニ着シ茲ニ一泊セリ蓋シ雷雨劇
甚電光乱茂シ天地將ニ顛覆セントスルカ状ナ
ル^カ以^テ故^ト翌日ヲ俟ツ一ク決セルナリ是ヨリ後
三十八年前ニ既ニ記スル所ノ如シ使節アリシ
ウス氏及ブルークホルスト氏ハ其人今尚存生
スルヲ以テ聞クヲ得ル所ナリ翌朝雨ヲ冒シテ
途ニ就キ三島ニ至リ藤澤及戸塚ヲ經テ江戸ニ
着セリ
ウヰルヘムアーダムス氏ヲシテ其到着ヲ幼君ノ

執政ナルカダドノニ報知セシム。且謝スルニ二
年来唯駿河^{老公ニノミ}キ拜謁スルノミニテ。幼君ニ謁スル
ノ禮ヲ缺クヲ以テス。則チ一ニハ旅行ノ不案内
ニ由リ一ニハ阿蘭船出帆ノ期日ニ迫ルヲ以テ
此禮ヲ缺クニ至ルナリ。^{佐渡殿}能ク意ヲ領シ
更ニ詞ヲ添テ曰ク。幼君ハ二年前ニ遠方ナル平
戸ヨリ航行セシヲアルヲ以テ。大ニ船事ヲ解セ
リ。且ツ荷蘭人勇壯ナル戦争ノ状。及全印土ニ於
テ商業銳敏ナルノ情ヲモ聞知スル所アルヲ以
テ。詳カニ領察スル所アリ。決シテ其疎意^{ニ出ルニアル}ヲ疑
フ知ル^テシ。明朝速カニ^聞ニ達シ。時日ヲ^彼消費セスシ
テ。謁見ノ順次ヲ整頓スヘキナリト。而ノ阿蘭使
節ノ為ニ必要ナル諸事ニ注意周旋セリ。翌日使
節^サシ^渡シ^叙ノ郎ニ就キ進寄スル所左ノ如シ。緋
羅紗五尺。黒色ノ絹ゴロフクレニ二卷。畦織一卷。
黒色緞子一卷。白海黄五卷。硝子罍三本。手銃一挺。
藥角ヲ添フ。進寄品速カニ受納サル。但シ其例外
ニ出ルヲ告ク。就中阿蘭人始テ江戸ニ来リ。不可
測ノ遠路ヲ經過シタル。其勞其費莫大ナルヲ察
スト。又曰ク。昨朝卿等来着ノ儀ヲ。幼君ニ言上セ

リ大ニ満悦スル所タリト

會話半時ヲ費ヤセリサハ渡ノ河蘭聯邦ノ事情

ヲ問フ一詳悉ニシテ一小國ニシテ改羅巴ノ一大

王國ナル西班牙ト戦争シ能ク之ニ抗スルノ勇

氣ヲ賞歎讀セリ且地球上萬國散布スルノ状及日

輪ノ出没スル所等ヲ問フ此等ノ說解中ニ使郎

ヲ饗應スルニ日本式ノ各種珍味ヲ供セリ更ニ

老年ニシテ運歩意ノ如クナラサルニ強テス

キス氏及セーゲルスゾーシ氏ヲ戶外ニ誘ヒ午

後登城謁見セシムヘキヲ約セリ

サハ渡ノ言ヲ食セス午後二時城内ニテ幼君ニ

拜謁セリ献上品左ノ如シ緋羅紗一卷半緋サア

イ織物一卷綠色カフア木綿ノ織物黑色ノ花樣

アル者十五尺紅色ノカフア赤黑色花樣アリ九

尺緞子一卷金色羅紗一卷ノールウエーゲン製ノ

カルベツテン荷物ヲ包ム木綿五卷薔薇ノアル

縹子一卷畦織絹ノゴロフクレニ一卷象牙三本

織物ノ見セ本百疋火繩銃一挺手銃二挺藥角ヲ

添フ硝子罍五本鉛數磅ナリ幼君ハ此献上品ヲ

嘉納シ鳴謝セリ然レモ僅少賤額ノ物品ニ向

テ高貴人ノ禮言ヲ賜フハ慙慙ニ堪ヘサル所ナ
 リ但シ聯邦阿蘭ニ於テハ致萬里ノ海ヲ航シ多
 シノ辛苦ヲ犯シ未テ質易親交親睦懇交ヲ請願スルニ方
 テ大ニ面目ヲ施コシ鄙意ヲ慰スルニ足ルトス
 ル所ナリ幼君ハ言辭終テ頭ヲ頓ケタリ既ニソ
 サ佐渡殿ダドノ侍臣等スベキス氏及セゲルスゾ
 ニ氏ヲ案内シ宮殿ヲ出テ城外ニ誘導セリ而ノ
 スベキス氏ニ賜フ所驛進馬コレバールデン道中先觸状ゲレ
 ーニ時服ホルク日本ロイチングニ時服ベワテ
 賜フ所ロイチング時服ベツテン十カワタヘ
 一ナリ蓋シ以テ非常ヲ戒ムルノ警固ノ為ニス
 ル所ナリ

其後使節ハ平戸候ノ第ノ饗應ヲ受タリ船ヲオ
 ムモゴウ港ニ曳ントスルノ企アルカ故ニ佐渡カ
 殿ハガレイ帆ト擲トニテ一艘バルク長ク狭ク走ル舟
 キヲ旅具ノ為ニ供セリ江戸ニテ此ノ如キ懇切
 ナル取接遇扱ヲ得シハ他國人ニハ絶ラナキ所ナ
 リ是ヨリ少時前ニ西班牙カスチリア使節ハ大ニ
 行装ヲ飾リテ通行セリ然レモ謁見ヲ賜フノ前

墨西哥ヨリ
人ヲ護送ス

ニ數日ヲ消セリ。且取扱^博上簡易ナリ。八月二十五
日スベキス氏及セゲルスゾーニ氏上ニ記スル
ノ船ニテ出帆セリ。其^夜オムモゴウ港ニ着船ス
ウイールヘムアダムス氏ノ家ニ一泊ス。一船アリ
暴風ニ遇テ低岸ヲ疾走セサルヲ得サルヲ見ル
是速カニ救ハサレハ日本北方ニ漂流ス。一キ者
ナリ。

是^則西班牙人ノ墨西哥ヨリ日本ノ漂流人ヲ護送
スル所ナリ。抑モ此日本人ハ往時ロドリゴ、デ、リ
ジウレニ隨テ新西班牙ニ渡航シ其地ニテ大ニ
饗應ヲ受ケ。西班牙王為ニ五萬レアレシ。一ルレハ
三ストイフル半ニ當ル。一ストイフルハ我ニ錢
一モ六六ナルヲ以テ大畧三千五百円以上ナリ
ヲ貴シ更ニアカヒユルオヨリ。墨西哥ニ送ルニ
多^巨貴^額ヲ消シ且貴價ナル四輪乘車ヲ贈寄スル所
ナリ。

新説の類見

阿蘭人ニ名此船中ニアリ。則テ其説ク所ヲ聞ク
ニカ^西ス^班チ^牙ニア^レン人マニルラヨリ未詳ノ南地
ニ於テ新ゴイネアヲ茂見セリ。穩和ナル地方ナ
リ。人民^口衆多食料ニ富ミ肉豆蔻及金ヲ産ス。ニ土
人アリ。此地ヨリ竊カニマドリットニ向テ密買ス

二八〇

西人言其
港請

新ゴイネアチ復見スルニ由テ更ニ~~キ~~ヲ詳知セ
シカ為ニ聞クニ其創見者ハカスチニヤ~~シ~~人
ナリ大利ヲ得シカ為ニマニルラヨリ一航路ヲ
開キ多人ヲ移シ諸事ヲ~~探~~調~~理~~シ土人ト力ヲ合セ
テ~~大~~更ニ海岸ニ植民セント欲スル所ナリ

指揮官ハ上ノ船ニ兵卒三人ヲ載ス是スピーキス
氏及セゲルスゾーシ氏相尊敬シテ懇親ヲ結
リ次テ多數ノ舟ヲ舩シカ~~西~~班牙~~人~~船將ヲ
慰ムル為ニ供セリ然レモ荷蘭使郎ハ謂ラク彼
自ラ来テ先ク余ヲ訪フ一シト集會後日ヲ期セ

西~~班~~牙

人日本~~帝~~御所様ニ書ヲ捧ケ其

船ノ日本港ニ入ルヲ許可ヲ請フ蓋シマニルラ
ヨリ新西班牙ニ赴クノ船舶屢颶風ノ為ニ漂流
シ其損害ヲ蒙ルル~~ト~~些ウナラス若シ日本人之
ヲ許セハ~~可~~其厚恩莫大~~ト~~ナリ然レモ日本海岸ハ低
キカ故ニ之ニ適スルノ地ナ~~シ~~何ノ港ヲ可トス
ルヤヲ知ラス終ニ日本ニ於テ船ヲ製造セン
ヲ請~~ナ~~リ蓋シマニルラ及新西班牙ニハ船技ニ
供スヘキノ良木ナリ又之ヲ~~製~~構~~造~~スルニ適スル良

近ナキヲ以テナリ。

阿蘭使節ハ告別シテ後途ヲ速カニシ大磯及藤澤ヲ過テ駿河ニ達シ八月二十九日正午少前ニ馬上ニテ之ヲ通過セシニ觀者堵ノ如シ其容貌甚タ奇異ナリ他地ノ平民皆然リ頭頂ハ大羊髮ヲ剃除スル一坊主ノ如シ後頭ニ於テ髮ヲ束ネテ締フ其既ニ結昏スル者ハ鬘ヲ具ス未夕昏セサル者ハ否ラス日本外套ヲ被ル壺テ膝ヲ過キ足ニ及フ外套ハ廣キ紐ニテ結フ但シ自在ニ用開スヘシ帶間ニ左脇ニ於テ小刀ヲ挟ム之ヲ尺劍ト名ク更ニ一長劍ヲ佩フ左臂ニテ支柱ス柄ハ鮫皮ニテ包ム而シ頗ル長シ兩手ニテ握ル一シ柄ノ上端ニ紐ヲ附ス外套ハ極テ濶大ナリ各色ノ花紋ニテ裝飾ス遊歩ニ使用スル杖ハ日本ノ竹ニテ製ス指ニ代ルニ下駄ヲ以テスグラバシドノカルノリ一テレンニ異ナル一ナシ環アリ大趾之ヲ貫ク運歩スル片一々足底ニ衝當シテ音ヲ發ス

スベキス氏及セゲルスゾーシ氏ハウヤルヘムアダロス氏ヲシテ到着ヲ速カニコセキユイド

ニ報知セシム。彼ヨリモ速カニ其侍臣ヲ送り。我
 安全ニノ帰着セシヲ祝セシマリ。我之ニ對テ曰
 ク。ユセキユエンドノノ厚意謝スルニ詞ナシ。日江
 本ニ於テ諸事整頓ヲ得タルハ全ク君ノ恩惠ニ
 出ル所ナリト。且ウキルヘムアダムスノユセキユ
 イドノニ聞ク所ノ如ク。日本帝^{將軍}ニ請願スル諸件
 詩可スル所トナリ。和蘭船荷物ヲ平戸ニ送^翰ル
 ヲ得^{シト}タリ。荷蘭使郎此事ヲ聞テ喜躍シテ眠ル
 能ワス。直チニウキルヘムアダムス氏ヲシテユセ
 キニイドノニ就テ荷蘭船日本海ニ入ルヲ許可
 サルノ免許鑑札ヲ一見セン。テテ請ハシメタリ。
 ウキルヘムアダムス氏其副本ヲ携ヒ來レリ。文言
 本書ニ異ナル所ナシ。唯未タ調印セサルノミ。是
 今日遲クモ明朝調印スヘシト。
 後一、日本人我カ旅宿ヲ訪フアリ。是一小船ノ
 主ナリ曰ク。曾テ船將ウイッテルト氏ニ隨テ^天
 マニルテ^テ航スル中ニ和蘭人多衆ノ為ニ災難
 ヲ蒙ムレリ。但シ是唯西班牙人及葡萄牙人ニ関
 涉スル事ニテ。余ガ知ル所ニアラサルナリ。然ル
 ニ日本人併セテ其損害ヲ蒙ムレリ。此事若シ我

日本將軍ノ聽ニ達スルヲアラバ。必ラス和蘭人
 ヲ德アリト為サシルベシト。
 然レモコセキユエンドノヨリ厚意ヲ表スル答
 札ナリトテ。スパキス氏ニ時版二十セゲルソ
 ーシ氏ニ十ヲ贈レリ。八月末日ライルハアタ
 ムス氏ニ國璽ヲ鈐シタル信牌二紙ヲ賜ハレリ。
 使節直チニ日本文ヲ蘭文ニ訳セシメタルニ文
 意左ノ如シ。阿蘭陀船日本ノ何ノ港ニ着岸ス
 ルモ敢テ故障スル者勿ルヘシ。却テ意ヲ加ヘテ
 厚遇スヘシ。使節此信牌ヲ得テ疑惑スル所ア
 リ。何トナレハ文中ニ尤モ眼目トスル事件。則チ
 貨物ヲ上ケ却シスル中。又之ヲ賣買スル中。監吏
 及税官妨碍セサルトノヲ記載セサレハ。後日
 之カ為ニ大ニ阿蘭人ヲ困苦ノ地ニ陥ラシムベ
 ケレハナリ。殊ニサビドノハ放肆ニシテ貨財及
 秤量ノ事ニ付。曾テ苛刺ノ処置ヲ為シタルヲア
 レハナリ。今此罪状ヲ將軍ノ聽ニ達セハ。假令其
 女ハ將軍ノ妃タルモ。彼恐ラクハ生命ヲ保ツ
 能ハサルベシ。然リト雖モサビドノハ高貴ノ人
 ナルヲ以テ之ヲ零落セシムルノ策ヲ施コス

信牌之意

此日本ニ於テ
 和蘭商業ヲ
 以テ

ナルヲ以テ之ヲ零落セシムルノ策ヲ施コス

極テ難シ。又若シ將軍何ノ故ニ阿蘭使節ハ今信
牌ヲ與ヘテ貿易ニ於テ故障スル者ナキヲ證明
スルニ。尚疑惑スル所アリヤト詰問スルハ。當然
ナレハナリ。抑モ將軍ヨリ賜ハリタル信牌ニ向
テ更ニ改正シ増補アテシトテ望ムハ。自ラ危禍
ヲ招クニ似タリ。

此事宜シク熟慮討議スヘキナリ。九月一日スヘ
キス氏及ウイルヘムアダム氏。コセキユエンド
ノノ邸ニ候シ。スバキス氏速カニ信牌ヲ賜ハリ
タルノ恩惠ヲ鳴謝ス。問テ曰ク文意意ニ協ヘリ

ヤト。答テ曰ク然リ。但シ文字單簡ニシテ。阿蘭船
ノ入港貿易ヲ許スト云フニ過キス。コセキユエ
ンドノ証言シテ曰ク決シテ故障スル者アルト
ナシ。且サビドノニハ別ニ一書ヲ贈リ。阿蘭貿易
ノ揚ケ卸シ。及ヒ賣買上ニ就キ妨クルト勿ルヘ
キ意ヲ諭セリ。若慮スルトヲ止メヨト。蓋シ此人
固ヨリサビドノノ人ト為リテ熟知スルヲ以テ
道理上ニ於テハ能ハサル所ナレト。尚或ハ我意
ニ任セテ船載貨物ヲ處置スルトアラシク慮レ
ハナリ。スバキス氏。コセキユエンドノニ請テ。若

三ノ月廿五日

シサビドノ難題ヲ言シ申ニ示スベキ一書ヲ賜
ラン。一ヲ懇求ス。蓋シ將軍ニ對シテ謙遜ナルベ
キヨリハ。將軍許可ノ意ノ通達アラシムヲ望ム
。切ナレハナリ。コセキエンドノ此事ヲ要ナ
シトシ。ライルレムアダム氏ヲ日本ニ留メ。凡ソ
犯則ノ事アレハ速カニ上申シ。其處置ヲ仰クヘ
シトス。

スペキス氏更ニ苦慮少ナカラサルヲアリ。今政
府ノ旅行ヲ許可スルノ遲速ニ依ル。九月中ニ帰
去スルニ非サレハ止ムヲ得スパナマニ至ルニ

五箇月ヲ待タサルヘカラス。其損害僅少ナラス。

コセキエンドノ事情ヲ領察シ曰ク。使節ハ速

カニ旅行スヘシ。ウイルレムアダム氏ハ在留シ

テ。荷物揚ケ卸シ。又貿易ノ事ヲ総轄スベシ。スパ

キス氏。コセキエンドノ厚意ヲ感謝ス。則チ

評決レタル事件ヲ日本文ニ記シ。其夜此願書ヲ

アダム氏ヨリ。コセキエンドノ手ニ捧ケリ。

此事採用トナリ。アダム氏翌日召サレテ登城シ

タルニ。願意聽濟ミノヲ通知セリ。是ニ於テ愈

將軍ノ恩惠大ニノ事ヲ處スルモ各々條理アル

三ノ月廿五日

ヲ知ルヘシ。他日之ヲ思フニ庄三郎殿ハ殊ニ阿
 蘭人ヲ愛顧スルヲ以テ。此事ヲ愆德シタルナリ。
 告テ曰ク御所様閑室ニ坐セリ。則チ願書ヲ捧ク
 別意ナキヲ以テ。アダム氏ヲシテ直チニ使節ニ
 達セシム。將軍ノ許可ヲ得タルヲ以テ。使節ハ速
 カニ旅行シ。翌年更ニ新ニ商船ヲ送ルベシ。庄三
 郎殿及ヒコセキエンドノ共ニ貴人ナルニス
 パキス氏及セゲルスゾーシ氏ヨリ。他人ノ未ダ
 得能ハサルノ進物ヲ受ケタルヲ以テ。此ノ如ク
 願意ヲ達スルヲ得セシメタリ。宜シク之ヲ感
 佩スベシ。翌年貨物ヲ輸送スルヲ怠ルヲ勿ル
 ヘシ。然ラサレハ將軍ヲ尊敬スルノ意ヲ表スル
 ニ足ラスト。

既ニノアダム氏退去ヲ命セラル。將軍ヨリ旅中
 必要諸件注意到ラサル所ナシ。使節深ク其厚遇
 ヲ謝シ。將軍ノ恩惠肝ニ銘セリ。敢テ遺忘スルヲ
 ナシト。訣別ノ後馬上ニテ掛川ニ至ル。中夜新居
 ニ達ス。一堅城アリ。進行三里。熱田宮ナリ。頗ル大
 馭ナリ。住民材木商多シ。街上渠中総テ木材ヲ貯
 ナ。大ニ我阿蘭ニ異ナラス。前部ニ凡太角物。板類

アリ。後部ニ家人住ス。路傍ニ假屋アリ。購者未テ
捨スル所ナリ。宮ト桑名トノ間入海アリ。其濶サ
七里。船ニテ乘名ニ達ス。繁華ナリ。市街ナリ。且堅
城アリ。夜亀山ニ達ス。馬ニテ山路ニ上ル。午時土
山ニ至ル。急雨雷鳴ニ逢フ。然レ氏夜ニ及ハス。ノ
石部ニ達ス。

大津ニテ相別レ。ス。パキス氏。及アダム氏ハ京都
ニ入ル。蓋シコセキユエンドノレノ書簡ヲ板倉ヲ
ロイモンドノレニ達ス。且ツ再ビ緋羅紗四尺。黒色
絹ゴロフグレインニ巻。畦織一卷。鉛数斤ヲ献ス。

久ッレテ後始テ進物ヲ納レリ。蓋シ之ヲ受ケサ
レハ阿蘭使節ノ厚意ヲ傷ルニ似タレバナリ。但
シ是例外ナリト云。告別ノ後。ス。パキス氏一二ノ
漆器ヲ購求セリ。是前日詔ヘタル所ナリ。之ヨリ
伏水ニ赴ク。到レハ則チセゲルスゾーシ氏。及ヨ
アンコウシーシス等。荷物ヲ帯テ大津ヨリ来リ。
我ヲ待タリ。茲ニ相會シ共ニ舟ニ入り。大坂ノ前
市ナルクシマニ向ヘリ。風ナキヲ以テ堤ニ沿テ
進行ス。
立帰りニ堤ニ赴ケリ。互市ノ根基ヲ定メンガ為

ナリ。大坂ヲ距ルヲ三里。善良ナル市場ナリ。此地ニ至レハ幸ニソメルキオトルサントホールトニ逢ヘリ。此人曩ニ難船シテ日本ニ至リ。遂ニ茲ニ逗留シタルナリ。大ニ日本ノ事情ニ通達ス。則チ堺商人ノ機密ヲ記スル書牘救紙ヲ示シ。スヘキス氏及セゲルスズグーシ氏ヲシテ。帰去ヲ速カナラサラシム。

手ノ三馬入

大坂ノ前市クシマヲ辞スル後。進行シテ千六百十一年九月十九日ニ平戸ニ投錨セリ。此地老侯ホイサマ。及少侯主馬殿。大ニ阜遇セリ。駿河及江戸執政ヨリ寄贈セル書簡。就中將軍ノ信牌ヲ示シタルニ。之ヲ通讀スルノ後。直チニ日本ノ監吏二人。小舟ニテ阿蘭船ニ来レリ。

(二七)

ホイサマハ此使節ニ對シテノミナラス。東印土商會ノ為メニ。大ニ周旋注意セリ。スパキス氏及セゲルスズグーシ氏ヲ貴客ナリトシテ。注意シ饗應セリ。曾テ千六百三年ニ。自費ヲ以テ一船ヲ購ヒ日本海岸ニテ難船シタルヤコソブクラーケルナーク氏及ノルキオトルサントホールト氏ヲ載テ。パタナニ護送セリ。又阿蘭人ニ日本ニテ始テ

手ノ三馬入
日本海軍の
シテ留置せし
ル

貿易ヲ開ク、機會ヲ失ハリ。此船ノ旅行ニモホ
イサマハ少ナクモ千八百七十人ノ傭夫ヲ役セ
リ。又千六百九年始テ伯帶比亞ヨリローデレ
ウエンノツトマールレシ。及グービター
シテ平戸ニ碇泊セシ。將軍ニ通商公許ヲ請フ
ノ商長ノ為ニ水夫五十六人ヲ附スルノ船ヲ
供セリ。此旅行二月ヲ消シタレハ歸港シタレ
船体大ニ損傷スルヲ以テ復タ用ニ適セサリシ
前ニ記スル平戸ニ至リタル船ニハ夥シク胡椒
ヲ積ミタリ。ホイサマ高價ニテ之ヲ購求セリ。是

手候(直)事
ヲ談ス

唯將軍ノ内戚ナルサビドノヲシテ長寄ニテ胡椒
ヲ買ハサラシムル為ニ。此ノ如リセサレハ一
商人モ胡椒ヲ買フヲ得サラシムレバナリ。但シ
ホイサマハ千二百斤ヲ買入レタリ。東印土商會
ノ為ニ費ス所損毛頗ル巨額ナリ。此損毛ヲ贖フ
ト易カラサルヘシ。又曾テ支那小船十艘ヨリ四
千斤ヲ買入レタルナリ。
是ニ於テ平戸ニ在ル阿蘭領事ハ此事ヲ評議シ
ホイサマニ其恩ニ報スル為ニ歴然タル進物ヲ
捧ントス。小品ヲ以テハ此ノ如キ巨業ニ答フル

ニ足ラサルハナリ。然ルモ此事延引シテ阿蘭ヨ
リ第二ノ使節ヲ將軍内府様ニ送ル所ニ方テ平
戸ノ老少ニ侯。及其伯父ニ各々意ニ適スヘキ進
物ヲ呈スヘキヲニ決議セリ。
内府様ハ始メ大御所ト称シ。終ニ御所様ト称セ
リ。大ニ外人ニ對シテ懇親ヲ表セリ。又全国人民
ヲシテ諸般ノ產物ヲ貿易シテ以テ殷富ヲ謀ラ
シメテ欲ス。是ニ於テ能ク外人ヲ補助シ。遍
ク全国ニ諭シテ妨碍スルヲ勿ラシム。然ルニ其
治世間ニ於テ羅馬基督教徒ノ為ニ血ヲ瀝ケ
テ致セリ。

イ、ソイトコルネリスハナルトハ。各種ノ殘刑
ヲ記セリ。則チヨアンネス五良左エ門シモン儀
兵衛マクダレナアグネスノルシオルピユエン
ドノ一托鉢人ダミナニエスレオシキエイゲモ
シミカール及マルタ。并ニ數見輩。或ハ刎頸。或ハ
曝刑。或ハ火刑。或ハ磔刑ニ処セリ。又林田ノ刑ニ
於ケル其妻マルダ。女マクダレナ。及十二歳見ヤ
コプ。共ニ刑セララル。アドリア。高崎ノ外ヨア
シナレオ。勘右エ門。及パウリウス。次右エ門アリ。

刑罰
天六

看官ヲシテ景況ヲ想像セシムル為ニハサルト
氏ノ記スル所ヲ掲ク左ノ如シ

有馬ヲ距ル一三里ノ廣谷ニ一屋ヲ構フ八柱ニ
テ支フ茅ニテ蓋フ地上ニ樹枝ヲ重積シテ壁ニ
代フ千六百三十年十月七日基督信徒ヲ死刑ニ
処スル為ナリ此黨二千人ヲ集メ繫テ數纏トナ
シ各人帽ヲ被リ蠟ヲ注クノ松炬ヲ持ツ六人ヲ
一組トス恰モアレントウエルプ或ハ羅馬ニテ市
中慶事アリテ相交通スル所ノ状ノ如シ途上聖
及ヒ諸神ヲ尊敬シテ神歌ヲ唱フ罪者上ニ記

スル屋内ニ充滿ス各人ニ木柱ヲ抱カシム帶ニ
テ柱ニ繫縛スレオ勤右エ門何ノ故ナル屋上ニ
登リ大声ヲ放チテ曰ク我兄弟ヨ今日信心堅固
ナルヲ詔ス我輩此火焰ヲ見ルニ是唯形骸ヲ焼
クニ足ルノミ然レモ今日新ニ天ヨリ賜ハルノ
火ハ永劫消滅スルヲナクレテ我無限ノ生命ヲ
保存スバシ兄弟ヨ唯神聖ヲ固信セヨ生命モ貨
財モ神ニ比スレハ何ソ貴フニ足ランヤト唱終
テ屋ヲ下リ後ニ柱ニ繫縛サレタリ是ニ於テ衆
人皆縛ニ就ケリ此時宣教師ガスパル氏基督ノ

内府様大御所
御前
御座
御
座
御
座

大像ヲ捧ケ。柱上ニ立ツ。其黒容人ニ似ス。高所ニ
登リ。衆人ニ示シテ曰ク。衆皆之ヲ視ヨ。此像ヲ見
ハ其残刑ニ處セラレタルヲ悟ラン。之ヲ尊敬ス
ルカ為ニ。汝等死スルナリ。則チ尊奉ノ意ヲ表ス
ルナリ。今死スルハ則チ生スルナリ。死ヨリ生ニ
至ルヘケレハナリ。汝等ヲ導テ天ニ至ラシムヘ
キナリト。バスカルノ説教止ムノ後。皆死ヲ待ツ
炬ニ火ヲ放テ。茅屋ノ四方ヨリ焼ク。各罪人火焰
ヲ距ルヲ三尺。徐クニ近通ス。然ルニマガダレナ
林田ノ女ヲ縛シタル帶弛解シタルニ。此女敢テ
火ヲ避クルヲ為サス。却テ熾炭ヲ已レノ頭上
ニ被フ。恰モ帽ヲ冠スルカ如クス。又十二歳児
マコツプノ帶焼ケ断タリ。其母マルタノ火ニ接
近シ。イ、シチスマリヤト唱テ死セリ。以上抄
録スル所ナリ。ハサルト氏ハ其景況ヲ詳記シ。形
状ヲ目睹スルカ如クナラシム。今唯此説ノ虚ナ
ラサルヲ証スルノミ。

内府様大御所
御前
御座
御
座

内府様大ニキリスト徒ヲ駆除セント欲シ。則チ
周圍列侯ニ嚴命ヲ傳フ。故ニ豊後ニハ火刑ニ処
シ。筑前ニテハ足加ヲ加フ。而チ織部殿ハ博多町

しきり又百五
三六二列ヲ行ク

ニ在テ將軍ノ命ニテヘリデン寺ノ前ニ四人ノ
監官ヲ置キキリスト徒姓名ヲ登録スル大書冊
ヲ調査シ各人日本宗旨ニ帰入スルヲ記セシム
之ヲ肯セサル者ハ直チニ死刑ニ処ス多救人員
中唯トマス及ヨアシトスノミハ羅馬教ヲ脱ス
ルヲ肯セス故ニ其脚ヲ縛シテ一木ニ掛クヨア
シミスノ頭ハトマスノ足ニ接ス蓋シ倒懸スル
ナリ此ノ如スルヲ半日一夜日本人之ヲ嘲弄シ
重物ニテ壓ス苦責殘刺ヲ極ム異邦ノ邪教ヲ信
スルヲ惡ムナリ後二人共ニ斬首セラル

三六二列ヲ行ク
一〇四四

五

シキユイ島ニ於テハキリスト徒ヲ裸体ニテ十
字架ニ上セ嘲弄シ殘酷ヲ極テ斬首シ後其屍ヲ
野ニ棄ツ有馬侯ノ處業尤モ甚シ多少苦責スル
ノ外深裂アルニ木間ニ挾ミ緊棕スルナリ脛及
膺モ此内ニ入レ槌ニテ敲キ或ハ足ニテ踏ミ苦
痛暫弛ナカラシム
千六百十三年以來内府様ヲシテ殊ニ殘酷ナル
血浴ヲ施サシメタル原因ハ宣教師ハサルトニ
在リ西班牙ノ威力次第ニ印土ニ擴張レ強勇ナ
諸島諸地既ニ服従シ又西方ニ於テハ全ク新世

此島一島也
起

界ナル亜墨利加ヲ押領ス。此ノ如クニノ漸次ニ
 廣大トナリ。不可航ノ南海ヲモ通航シ。更ニ東方
 ニ向テ多地ヲ領スルニ至ルヲ預メ知ルヘシ。有
 名ナルモリユキス諸島。不可攻ノ麻六甲城ヲモ
 陷レ。呂宋ノ大地ヲ併吞ス。此近隣ナル呂宋ヨリ
 後日兵甲ヲ日本北方ニ送ルニ至ルヘシ。呂宋ト日本ト
ノ間ニ見ルヘキ者ナシトハ是ハサルトカ不学
ニ京スル所ナリ。近未探偵スル所ニテハ最モ近
キ所相距ルヲ獨逸法日本若シ外国人ト構兵ス
ノニ百里ニ減セス。
 ルニ及ハ、其勝敗未タ察ス可テス。而ノ屢進撃
 ヲ受ケルハ。全国ノキリスト徒等怒チキリス

ト王ノ指揮ニ属スヘキナリ。
 ハサルトハ。其ノ一事件ヲ第一ノ原因ト為セリ。
 曾テ一ノ西班牙船。日本港ニ投錨セリ。日本ノ一
 貴人衛門殿。其船内ニ於テ偶天図及ヒ地球大図
 ヲ見ル。衛門殿此図ニ就テ邦国山岳河水市街港
 灣ヲ詳知シ。殊ニ尤モ驚キタルハ何ニ由テ西班
 牙ハ此ノ如ク廣大ナル領地ヲ歐羅巴亞墨利加
 及亞細亞ニ有シタルヤ。又能ク之ヲ維持シ得ル
 ヤト。之ヲ問フニ船人答テ曰ク。西班牙人ハ全地
 球上ニ通商ス。民権ヲ傷ラサレハ敢テ之ヲ拒ム

者ナシ。然レモ不都合ノトアレハ。強勇ナル兵力
ヲ加ヘサルヲ得ス。其可否ハ王命ニ決ス。衛門殿
更ニ問フ其僧徒ヲ送ルハ。土民ヲ誘導シキリス
ト教ヲ遍布シテヘーデン教ヲ脱セシメントス
ルヤ。一揆起ルトアルニ方テハ。内国ノ補助ヲ得
テ之ヲ以テ他ヲ凌辱セントスルニアラスヤト
衛門殿舟士ノ僧徒ヲ送ルノ意ヲ察シ。且地凶ノ
事ヲ將軍ノ聽ニ入レ。教徒ヲ拒絶スルト曾テ千
五百八十七年ニ。太閤様二十日ヲ限リテ。日本ヨ
リ教徒ヲ驅逐セントシタル法ノ如クセントス。

衛門殿此説ヲ固執シテ。内府様ニ進ム。曰ク。西班
牙人足ヲ日本港ニ入ルト深キニ過ク。是後日各
所ニ着岸シ。終ニ日本ヲ服従シ。押領セントスル
ナリト。

ハサルト曰ク。教徒等苛責セラレノ第三ノ原因
ハ。西班牙人從來緩ナリシ。英人及蘭人ヲ苦シマ
シムルナリ。抑モ西班牙人久シク歐羅巴諸国ノ
ミナラス更ニ地球ノ全部ニ交通スルヲ以テ。威
権他ヲ凌ク。故ニ一二年未。百露。墨西哥。佛蘭西。阿
蘭。及他地ト交戦ニ及ヘリ。此ノ如キ偽誓暴怒ハ。

幾百年ヲ経ルモ止マサルベシ。彼常ニ先ツ僧徒
ヲ送テ其道ヲ開キ。神聖ナル基督教ヲ假面トナ
シ。漸次端緒ヲ開キ。人ヲ眩惑スルニ莫大ノ財ヲ
費ヤシ。且ツ之ニ礙スニ羅馬法王ハ此道ノ為ニ
財ヲ傾クルヲ以テシ。ヘーデン教ニ固結セス。速
カニ轉心シテ帰化セン。トヲ以テス。殊ニ教徒等
大ニ之ニ注意シ。詐術權謀以テ諸侯ヲ瞞着シ。騷
乱殺伐ヲ醸成シ。暴動乱妨ノ主長トナル。故ニ貴
僧自ラ出テ四方ニ宣教シ。全領地ヲ連結セント
ス。曾テ佛朗西ニ於テ一石塔ヲ建テ。其内ニ鑿ヲ
埋ム。蓋シ佛国ヲ刺スノ意ナリ。巴里ニ大学校ヲ
建テ。數年前ニ一書ヲ政府ニ捧ケ記シテ曰ク。全
世界ニ親睦懇交ヲ結フ者イ、ソイトニ過リル
者ナレト。アントウエルパン。バジヤア。プリユス
トルリセ。ボルデーウ。パラーグ。及ヒ他ノ近隣
諸地ニテハ。屢彼輩ヲ請招ス。若シ勿擲茶王ヲ
長ク此術ニ陥リシナラハ。英吉利。蘇格蘭。依蘭
土王ノ如ク。追放セラレテ損害ヲ蒙ムルニ至リ
タルナルベシ。是ハサルトノ内府様ノ羅馬キリ
スト徒就中僧徒ニ向テ挑撥セララルノ第三ノ京

因ナリトスル所ナリ。

然ルニ日本侯ヲ口タシウスアリ。此候有馬ヲ領

ス。將軍ノ恩顧ニ頼テ大ニ自負ス。其緣由ハ其子

後ニ離縁シタルモ内府様ノ姪ニ婚シタルハナ

リ。肥前ノ大部ヲ領シ遺傳ト為サントスルノ願

望ヲ企ツ。此願意ヲ達センカ為ニパウリユスダ

イハチヲ發遣セリ。是踰越ノ押柄ニノ將軍ノ恩

惠ヲ盜マントスルナリ。為ニ先ツ莫大ナル進物

ヲ献セシム。然ルニダイハチ之ヲ竊カニ私有ト

ナシ。敢テ献ヤス。處置遲滞ニノ成ラス。ゴロタシ

ウス。ダイハチノ告報ヲ待ツニ耐ハス。既ニシテ

ダイハチノ所業ヲ探知シ。大ニ怒テ自ラ之ヲ刑

セントシ。馬ヲ馳セテ上途ス。其子ミカール及嫁

則チ内府様ノ姪ヲ伴ハントス。此二人大ニ此ノ

恥ヲヘキ企謀ヲ諫止シ。プロダシラスヲシテ顧

慮スル所アラシメントセリ。高老ニ及テハ其領地ヲ出サルノ制法

ニ反。是ニ及ヒプロダシラスノ隱謀露見シ。終ニ

刑戮セラレ。其妻亦刑セラル。千六百十二年四月

二十一日。駿河市中ヲ馬上ニテ巡行スルノ後。刑

場ニ臨ム。周圍三尺ノ距離ニ火ヲ焚キ。徐々ニ薰

焼ニ臨ム。周圍三尺ノ距離ニ火ヲ焚キ。徐々ニ薰

死セシム。其婦ニハ夫ヲ火刑ニスルヲ預メ告
 知セリ。抑モプロタシウニ有馬ニ於テ大ニ教法
 ヲ信ス。是内府様ノ憤ヲ起ス所以ナリ。就中制法
 ヲ破レハナリ。凡ソ父罪アリテ刑ニ處セラルキ
 ハ。其子亦死ヲ免カレス。是日本ノ習慣ナリ。
 以上ハサルト説ク所ノ羅瑪キリスト徒日本ヲ
 争乱スルノ理由ノ外更ニ第五ノ原因アリ。則チ
 某ノキリスト徒日記中ニ掲クルアリ。曰ク葡萄
 牙僧^{日本}ス^人ニ往時ハ大自由ヲ与ヘタリ。是ニ
 於テ大ニ教法ヲ宣布セリ。帝ニ賤民ニ於テノミ

ナラス。更ニ日本ニ殖民シテ其信用ヲ固ム。葡人
 寺堂及ヒ学校ヲ建テ。教法規則ヲ教諭ス。或ハジ
 ダキユスコ^ニヨ^ニ由テヘツトゲセルシカッ
 アデルアルデルヘイリラス^テマ^ーグ^ドノ^寺院^ア
 或ハ別人ハ他ノ建築アリ。フ^ラン^シス^カー^ネ
 ル^及ド^ミニ^カー^ネル^ノ外^イ、ソ^イテ^シ共^ニ宗^者
 群ヲ為シテ日本全国ニ散蔓セリ。ア^フス^ラー^ン
 シールミツセル^ハリ^ケヒ^ユール^オール^ビー^グ
 ト^ト等ノ建築ニ巨額ノ財ヲ費ヤシ以テ輕信ノ徒
 ノ心ヲ束縛セントシ。年々日本ヨリ百トシニ下

キリストの教
の事

ラサル金ヲ国外ニ出シ。彼輩居留スルノ地ノ入
民ヲ次第ニ貧困ナラシメテ。而モ尚其手ヨリ飛
散スルヲ悟ル。勿ラシメントセリ。既ニメビス
コツプ^ルヲ長崎ニ置キ。重大ナル企謀ヲ抱キヘ
デシ。王ヲシテ椅子ヲ下リ。冠ヲキリスト王ニ讓
リ。則チ葡王ヲシテ日本ヲ領スルノ全權ヲ握ラ
シメントスルノ書ヲ葡王ニ捧ケリ。然ルニ此隱
謀突露スルニ及テ。將軍大ニ驚駭シタリ。是ニ於
テ悉ク葡人ヲ誅セントスルノ議起レリ。
彼輩之ヲ聞知スル。久シケレド。尚意トセス。日

大ニキリストの教
の事

本キリスト信徒ヲ集テ七八万ノ勢ヲ得。以テ將
軍ノ兵ニ抗シ。却テ之ヲ退走セシメリ。然レド將
軍更ニ新兵ヲ加ヘ。且別將ヲ送テ之ヲ補助シタ
ルガ為ニ。大戦數回。勝敗久シク決セサルノ後。終
ニ大ニ乱党ヲ破レリ。是ニ於テ誅戮殺伐残酷ヲ
極メリ。此時葡人ノミナラス。日本キリスト党共
ニ刑ニ罹リ。濺血家族ニ及ヒ。一ノキリスト徒ア
ルヲ見レハ。全街忽チ戰場トナル。此事ヲ集録シ
テ日本歴史ノ一騷乱ト為ス。
此事件アリシ以去。内府様大ニキリスト徒ヲ懲

サントス。但シ尋常死刑ノミニテハ足レリトセ
サルヲ以テ磔刑ニ処セントス。往時羅馬人シユ
マニユス寺トユヘンチユス寺トノ間ニ一ノ活
犬ヲ十字架ニ上セ。其架上ニ一ノ鷲鳥ヲ繫ケリ。
是ガルリオンレヨリ侵入シ。大勝シテ羅馬ヲ押領
セシタルセノネス。ノ紀念トスルナリ。此時金街
灰燼トナリ。軍卒多ク殺戮セララル。少許ノ人員ア
リカヒトリウム城ニ隠ル。防戦勇拒ス。其兵
ヲ失ス。因テ暗夜竊カニ山路ニ攀ツ。諸犬皆眠ル。
鷲ハ久シク睡ラサルヲ以テ疲勞シタル番卒ヲ

醒覺セサリシヲ以テ城終ニ敵手ニ落タリ。然レ
氏羅馬人。其後此磔刑ヲ犬ヨリ人ニ及ボシタリ。
但シ其始ハ買奴ノミニ於テス。一買奴アリ。プラ
ウチユス歡樂劇中ニ此事ヲ演ス。

余十字架ノ墓ナルヲ知ル。然レモ近接セス。
余宗家ニハ父アリ。祖父アリ。曾祖父アリ。

然レモ羅馬人ハ買奴タリ。モ重罪ニアラサレハ
磔刑ニ處セス。之ニ筭スハキハ雇主ヲ欺ク。呪
法ヲ行フテ雇主ノ死ヲ祈ル。モ逃亡スル。モ是ナ
リ。抑モ買奴ニハ凡テ刑ヲ加フルニ重シ。罪輕キ

十字架ハ諸國ニ
用ルル事ナリ

モ罰重シ。他人ニ在テハ怒スベキ者モ買奴ニ於
テハ假ス。ナシ。輕罪ニハ烙印ヲ貼ス。羅馬ノ制
法ニハ。乱黨アルモ尋常紳士ハ斬罪ヲ免カル。手
ハ斬首。賤民ハ十字架ニ刑シ。或ハ野ニ棄ッ。羅
瑪ノ自由黨曾テ帝ノ壓制ニ屬シタル時。軍役ニ
方テ令アリ。凡ソ兵士甲冑ノ音ヲ發スルコト勿レ
多数ナルモ亦然リ。之ヲ犯セハ步兵長騎兵長又
隊長ナルモ十字架ニ架セラルコトアル。

但シ羅馬ノ外。殆ント諸大国ニ於テ皆残酷ナル
死刑アリ。故ニ希臘史家チユレデス。イナリユス
王ヲ記ス。愛心者ノ為ニ陥ラレ。埃及人ノ為ニ十
字ニ架セラレタリト。又ヘルドチユス曰ク。ボレ
ソラテス。サモス島ヲ服従セシ時。全勝ノ甲兵ヲ
以テ。全希臘國ヲ蹂躪レ。終ニ偉効ヲ奏シ。貴重ナ
ル寶石ヲ海ニ投シ。其卓上ノ煮タル魚ノ胃中ニ
復スト。然レ。此ボレクテス。亦穩死ヲ得ス。波斯
人オロテス。偽計ヲ以テ。マガネシアニテ頭ヲ
断セリ。茲ニ衆人充滿ス。ボレクテスノ女。夜中
夢ニ其父ニ引カレテ。此地ニ到ルニ。氣中ニ飛揚
シ。ジエビーテルニ逐ハル。日輪ニ接近シテ溶解

歴山王買奴二千
人

セリト。而ノ果メオロ^レテス^レホ^レレ^クラテ^スヨ^ク十
字ニ架^レ之^ク天ニ掲^ク日光之ヲ照^ラシテ脂肪
架ニ滴^レリ。

又歴山王ハ医士^ヲテウ^キユス^及チ^リル^買奴
二千^人ヲ十字ニ架セリ。又サンチビユス^アテニ
ル^ハ波斯人^{アリ}チ^アク^タヲ殺セリ。此残酷處
業ヲ以テ觀者ノ慰樂ニ供セントス。目ハ神經ノ
縮^脈管ノ牽引^一身ノ震^搖ニ飽^キ耳ハ騷^響ニ
飽^テ徐^カニ死ニ就^ク。獨逸人^及ガルロイス人^ハ
タキチユスニ倣^テ此ノ如キ酷刑ヲ詐偽者^及逃
亡人ニ加^フル^ヲアリ。然レ^モ一人^氏モ垂^墨利加
人就中^カル^タキニ^ン人ノ如^ク處置シ^タル者
ナシ^カル^タキニ^ンハ軍將^屢十字ニ架セ^ラル
^ヲアリ。是或ハ全軍ノ損傷ヲ厭^フテ逃亡シ^タル
モ或ハ自^ラ奏^効シ^タレ^モ他ニ軍法ニ觸^ル^ヲア
ル^モ亦然^リ。

十字架
法
本
人
法

十字ニ架スルノ法各所皆同シカラス。十字架ノ
狀既ニ同一ナラス。多人ヲ磔スルニハ唯一木ヲ
用^フ之^ニ手足ヲ釘固スルナリ。又尖^リタル木ヲ
肛門ヨリ刺^シ。脊椎ニ沿^テ進^テ其端ヲ口ヨリ出

サシム。但シ被雜十字架ハ。二本或ハ三本ニ成ル
 或ハ同長ノ二木ヲ中間ニテ交叉シ。両端ヲ上下
 ニシテ相開ク。別ノ横木ニ尻ヲ置キ。手足ヲ延伸
 シ。釘ニテ固定スルナリ。
 僧家ノ記録ニ。アボステルアンドラーノ終焉
 ヲ記スル左ノ如シ。テルチユルリアニユス。ヤコ
 ブノ所為ニ倣ヘリ。則チ兩臂ヲ交叉レテ。十字形
 ナラシム。エピライミ及マナセ。勝利ヲ得タル日
 ニ為シタルナリ。先ツ告テ曰ク。ハイランドノ怒
 ニ觸レタル十字ニテハ。全幸福流去スベシト。又
 十字或ハ二個ノ不同木ヨリ成ルアリ。其長キモ
 ノヲ地中ニ刺シ。短キモノヲ上端ニ釘固シ。或ハ
 竊下ニ於テス。長木ノ一端ニ一横木ヲ附ス。之ニ
 ハ。治人ヲ置キ。架上ニテ死セシムルナリ。別ニ死
 刑ニ處スルノ理由ヲ記シ。掲ケ。衆人ヲ呼ヒ集テ
 之ニ示ス。又十字ニ二枝アルアリ。一木ヲ豎テ一
 木ヲ横フ。其長枝ニ沿テ膏木ヲ附シ。之ニ横木ヲ
 安ス。或ハ上端枝ニ二木ヲ横ヘ。高ク釘固ス。或ハ
 横木ヨリ双方ニ二木ヲ下ク。或ハ二横木ヲ附シ。其
 上枝ニ手。下枝ニ足ヲ延伸スルアリ。此後ノ式ハ

日本ニ用アル所ナリ。固定スルニ日本ニテハ縛結ス。或ハ十字ヲ平ニ地上ニ置キ。後ニ罪者ト共ニ之ヲ豎ツ。或ハ先ツ十字ヲ地中ニ立テ。三梯ヲ附ス。罪者ヲ中梯ヨリ登ラシメ。二帶ニテ手ヲ左右双方ニ揚ケ縛ス。或ハ罪者ヲ横木ニ手ト共ニ縛シ。二繩ニテ體ヲ引キ。拳ケ豎タシム。但シ日本人ノ磔法ハ。往時羅馬希臘シリールス波斯。亞弗利加。及他国ニテ行フ所ノ刑法トハ自ラ異ナリ。羅馬及希臘人ハ。棒或ハ銅星。或ハ銳骨ヲ植タル杖ニテ鞭打ス。之ヲ刑場ノ柱ニ於テスルアリ。或ハ罪人ヲ引テ路上ニテ之ヲ鞭ツアリ。故ニピロ曰ク。羅馬將軍ヲラウキエスアレキサシデリ。トシニ於テヨード人多數ヲ刑場ニ於テ残酷ニ鞭笞スルノ後。十字架ニ釘セリ。クリチニス曰ク。歴山王ハワグジナールアリマセス。ユヲ三万ノ兵卒ニテ強テ岩礁上ニ追上ケ。足ヲ礁ニ繫テ。苛酷ニ鞭笞セリ。又裸体トナシ。十字架ニ釘ス。但シ日本人ハ鞭笞セス。着服。終ニテ二横木ニ固縛ス。是稀ニハ羅馬

ニテモ行フ所ナリ。史家アゴジアスアボステル
アシンドラースニ就テ曰クエデセシニ於テオン
ドルビユルゲルノステルアーゲアスハ獄吏
ニ命シ徐々ニ死セシムル為ニ釘固セスシテ結
束セシメリ。其員數ハ金ノ多寡ニ應ス。多クハ各
手ヲ臂ニテ結ビ各脚ヲ膝下ニテ釘固ス。或ハ多
釘ヲ要スルヲアリ。是少釘ニテハ保持セサル中
或ハ全身ノ重力ニテ手ノ滑脱スル中。等ナリ。罪
者アグリコラハ多釘ヲ打タレテ獄吏ノ手ニ死
セリ。此ノ如キ処刑ハ苛酷ト云フヘシ。更ニ残酷
ナルハ十字架下ニテ徐々ニ火ヲ焚キ罪者ヲ薰
シ。煙ノ為ニ窒死セシムルナリ。此ノ如キ死刑ヲ
キリスト徒ニ行フハ三百年來獨逸ニテ為ス所
ナリ。テルチユラリアニユスノ説ニテハ通例之
ヲタケケボスト称ス。蓋シタケケボ込人十字架
ニテ人ヲ焼クヲアレハナリ。マレテラールスポ
レールカレボユス。此刑ニ處セラレタリ。ボレールカ
レボユス將ニ十字架ニ架セラレントスル中。獄卒
ニ告テ曰ク余ヲ焼クニ緩徐ニスヘシ。余謹テ神
罰ヲ耐エヘシト。此時釘固セスシテ緩縛セリ。

磔刑ニ處シ更ニ残忍ナルハ罪者ノ足ヲ地上ニ
 在ラシメ獅子帝熊或ハ他ノ猛獸ヲ放テ下ヨリ
 之ヲ喰ハシムルナリ此苛刑ハネ帝ノキリス
 ト徒ニ施シタル所ナリハ一デシ人ハ徐口ノ死
 ヲ為サシムルニ他法ヲ以テス則チ頭ヲ下ニシ
 身ヲ倒ニシテ十字架ニ掛ケ手ヲ下ニシテ横木
 ニ延伸シ足ヲ上ニシテ腕キ緊縛スルナリ
 コルテラールヒクトリニエスネルフハ帝ノ為
 ニ十字ニ架セラレ三日存命セリ又ナモラウス
 及マウラハ相互ニ勦劬シテ勇ヲ鼓シ九日存命

セリ但シ此ノ如リスレハ多ク饑餓ノ為ニ死ス
 又血液滲漏シテ徐口ニ眩暈シ終ニ死ス故ニ之
 ヲ保存スルニハ食物ヲ與フベシマルテラール
 カラウジウスアステリウス及ネノシニ施ス所
 ナリ此輩ヲ十字ニ架シ其体ヲ鷲ニ喰ハシメリ
 前以テ鞭笞ヲ加フルニ非サレハ十字架上ニ在
 テ長ク保生スヘシ故ニセネカノ説ニ拠レハ或
 人ハ架上ニアルヲ二日ノ後吐唾セリ又ジエス
 チニエスノ証スル如クカルタギニオンセル將
 軍ボミルカルハ罪人ヲ劇シク刺貫セリガミル

十字架の刑

カル。シ。リ。山ニ於テアガトクレスト戦フ。帰路
市場ノ中間ニテ捕ハレ。十字ニ架セラレタリ。然
ルニ猶劇場ノ如ク。彼ノ従者ノ悪業ヲ嚴ニ呵責
シタリ。或ハ過ナキハンノニ。或ハギスゴニ。終ニ
ハミルカルニモ。蟬ヲ頸ニ抛ツニ至ルヘシトテ
其不信ヲ辱カレシタリ。

十字架刑ノ死徐カナルヲ以テ甚ク稀ニハ諸侯
ノ恩惠ニ因テ架ヨリ卸シ保生スルヲ得ルヲア
リ。有名ナル僧家史者ヨセブ。因ノ記ニ。余羅馬軍
ヨリ歸ル片ニ道一村ヲ過クヨリデン人多救十

十字架の刑

十字架ニ在ルヲ見ル。内知人三名アリ。往時ノ親友
ナリ。其不幸ヲ見ルニ堪ハス。將軍チチユスヘス
バシアニユスニ就テ。放免ヲ懇請ス。チチユス則
チ其言ヲ容テ。三名ヲ十字架ヨリ卸シ。注意シテ
治ヲ加ヘタリ。但シ生ヲ得シ者僅カニ一人ノミ
磔刑人ヲ速カニ死セシムルハ。キリスト徒ノニ
罪人ヲ十字ニ架スルニ始マル。但シ羅馬法ニア
ラスヨリド法ニ倣フナリヨリ。ド教則ニテハ。若
シ人罪アリ死ニ處スヘキハ。之ヲ殺スヘシ。又十
字架ニ上ス片ハ。久シク屍体ヲ晒ラシ夜ヲ過ス

勿レ。必ラス即日ニ之ヲ埋ムヘシ。蓋シ十字ニ架
スルハ。神ノ怒ル所ナリ。汝汝ノ国土ヲ汚ス。勿
レ。是神ヨリ汝ノ遺物ト為サシムル所ナレハナ
リト。アムガロシウス此理ヲ演テ曰ク。既ニ十字
架上ニ死スレハ。罪者ノ刑足レリ。若シ久シク之
ヲ架スレハ。罰重キニ過ク。ト云ヘシ。其死ヲ久シ
カラシムルハ。其與族ヲ辱カシムルナリト。
故ニ磔刑人ヲ鞭笞スルハ。羅馬ニハ行ハレス。架
上ニ在ル者ヲ困難号泣歎息セシメテ。觀者ノ娛
樂ニ供スルニ似タリ。然レモ暴悪人アリテ尋常

苦責ニテハ。足ラストスルヨリ。羅馬帝ゾオセル
アニユス。及マキレミユス。磔刑人ヲ鞭笞スル
ヲ始メリ。鞭笞ノ法左ノ如シ。鉄砧ヲ兩脚兩臂
及腰下ニ置キ。二獄吏ヲシテ重槌。或ハ鉄杆ヲ以
テ打更ニ打テ。手足碎剝スルニ至ラシム。
是往時ヘリ。テニテモ。又日本ニテモ。内府様ノ
命ニテキリスト徒ヲ磔刑スルニ施行セシ。所ナ
リ。以テ十字架上ノ基督ヲ信者ノ眼前ニ見ルカ
如キ思想アラシムル為ナリ。内府様又ニ長簷ヲ
以テ。兩眼ヲ刺シ。ヘイテシドノ眼ヲ開キタルニ擬

スルナリ。ヘーデン人ハキリスト徒ニ此ノ如キ
苛刑ヲ加フルヲキリスト徒ハ却テ神ト同刑ニ
濯ルナリトテ甘受スルナリ

古時ヨリ萬物皆十字ナルヲ見ルノ説アリ。三ニ

ユチウスヘリナス。マキシモユスタウラネンシ

ス。テルチユルリアニユス。及他氏ニ撰テ今僅カ

ニ一二例ヲ示スヘシシユスチニユスマルチル

曰ク。凡ソ世上万物形体ヲ為ス者ヲ觀察スルニ

皆十字形ヲ具ヘサル者ナレ。人工天工ノ別ナリ

此則ニ漏ル者ナシ。夫レ櫓アリ帆柁アリ以テ始

テ海ヲ航スヘシ。陸上ニハ農具アリ。皆十字形ナ

ラサルハナシ。又彫刺工及ビ他ノ職工ノ使用ス

ル諸具亦十字形ヲ具フ。人類ノ形容亦禽獸ニ異

ナラス人アリ直立シテ臂ヲ延フレハ則チ十字

トナル。而メヒルネーミユス曰ク。地球ノ形圓ナ

リト。虽モ四方アリテ自ラ十字形ヲ存ス。鳥ノ空

中ヲ飛揚スル十字ナリ。人ノ水中ニ游泳スル或

ハ祈念スル亦十字形ヲ執ル。又僧家史者リユヒ

ニユス。ソサタニユル。及ソイカ。正則テオドシラ

ス。デゴロ。テノ建築シタル寺院ノ状。自ラ之ニ

扱フ。又埃及ニ旧寺アリ。高名ナルセパヒスノ築
ク所ナリ。今潰崩シタル周圍ノ壁ヲ見テ。救百年
前ノ石ノ秘ヲ見ル。神文アリ。唯セラビスプリ
ステルノミノ悟ル所ナリ。此文字皆十字形ヲ為
ス。其意ハ生ハ来ル。人ノ命ト。ラクタシナク
ホルミアニユス曰ク。魔師アボルロデルヒユ
マテ避クヘキ孔ヨリ来レト。是ヘイランド十字
ノ詩ナリ。ヘイランド生前。其国土恐ルヘキ地震
ニテ鳴動ス。希臘文ヲ記スレハ。固釘セル十字
ニテ苦死ヲ執ル。

キリスト教

内府様ハ羅馬ヘイデシ。例ニ依リ。前ニ記スル
ノ原因ニテキリスト教ヲ斬首スルノ後磔刑ニ
處シタルハ驚クヘシ。然リト。虽此事敢テ驚クニ
足ラス。自ラ五箇条ノ理由アリ。若シ内府様深ク
キリスト宗ヲ信仰スルニ於テハ。當時西班牙国
ハ。世界一般ヲ総轄セントスルノ勢アルニ因テ
共ニ幸福ヲ得テ威權ヲ増スヲ得ルナリ。抑モ西
班牙ハ。亜弗利加ノゴイネア。及アンゴラト称ス
ル海岸ニ突出シタル二国ヲモ領シ。西方ニ於テ
全ク新世界ヲ創見シ。新西班牙。墨是哥。百露
シリ

出帆
後
出帆
後
出帆
後

シカニ分ツ。且此外剛勇ナル国ヲ下タレ。千五百
八十一年葡萄牙ヲ西班牙ニ屬シ。尚印土ニアル
陥レタル諸地。皆掌中ニ在リ。臥亞麻六甲瑪港及
ヒ其他ヨリ。大ニ海軍ヲ派出スヘシ。殊ニ西班牙
人ハ。日本ニ最モ近キピリツベリ。ネンニ根據ス。
是数年前ニ停泊シタルヨリ。爾來年々之ニ至リ。
漸ク威力ヲ強盛ニセン。トヲ期セリ。
ロドウエーキデヘルラスコノ時ニ方テ。西班牙
ピリツプス第二世ヨリ。墨是哥ニ使節ヲ送リ。マ
トリツトニ命レ。千五百六十四年。大軍ヲ發シ。近

未創見ノ日本ノ南ニアル諸島ヲ襲ハシカ。為ナ
リ。是往年世界ヲ一周シタルルル。ヘルジナンドマ
ゲルラネス。始テピクトリ。ア船ニテ。着岸シタル
所ナリ。此船隊ナチヒタト港ヨリ解纜シ。ミレ
ルロベスデレカスピ指揮タリ。此船危険ナル南
海ヲ涉リ。西班牙王ポリツプス第二世ノ名ニ取
リ。ピリツプマリーネント称スル諸島ヲ創見セリ。是
ヨリ進テマニルラ市ニ入ル。此地ニ保塞ヲ構ヘ
リ。往時ハ一大寺ト。三小寺アリ。甲ハアウキエテ
ン僧ノ為ニシ。乙ハフランシスカネンノ為ニ

ス。丙ハドミカリネンノ為ニスルナリ。西班牙人
今ピリウパーネンヲ鎮撫シ。支那軍勢ノ乱妨ヲ
防拒ス。

リマボンハ支那ノ一地トリユセオニ生ル卑賤
ニ出ツ又シク諸道ニ横行ス。無頼ノ徒ヲ嘯集シ
タルニ。此時政府壓制ヲ厭フ者多キニ由リ。漸次
ニ增多シ。リマボンニ属スル者二千ノ多キニ
至レリ。是ニ於テ山野ニ居テ構テ住セリ。キユイ
クン。臣王ハリマボンヲ捕ヘテ大明府ニ送リ入
牢ヤレノント熱心セリ。然ルニ賊軍此風ヲ食テ

早リ海濱ニ退散セリ。是其力臣王ヲ拒クニ足ラ
サルヲ察スレハナリ。海濱ニテ多船ヲ奪ヒ遠去
シ。既ニ海上ニ出テ我兵ヲ点檢スルニ。四十艘ヲ
算ス。他ノ支那海賊ヒントキユイアム二十艘ヲ
率フルニ逢フ。リマボン之ト戦フテ十五艘ヲ押
奪セリ。ヒントキユイアムハ辛クシテ五船ヲ帶
テ遁走セリ。此ノ如キ勇猛ナルヲ見テ沿海村落
大ニ恐怖セリ。為ニ全支那震驚セリ。数月ヲ出テ
スシテキユイアム臣王百三十船ヲ装シテ四万
ノ海兵ヲ率ヒ向フリマボン此事ヲ聞テ無人島

トウシヤコチカシニ發行シオモンコソリツト
ルニ就テ身ヲ隠サント謀レリ
茲ニ二船ニ遇フ。是コニルラヨリ直ニ支那ニ進
行スル者ナリ。聞ク所ニ拠ルニマニルラニハ現
今西班牙人七十ニ過キス。他ハ周圍諸島ヲ突見
セシトヲ勤ム。此地元来多人ニ富饒ナリ。土人
戦事ニ慣レス。今ヤ好機會ナリト。依テ之ニ向テ
進行ス。イルロコ島ノ上ニテ新見ノヨアンデサ
ルセドニ傍テヘルナシナリヲ見ル。此地ニ西班
牙小舟ヲ寄スルヲ見ル。是サルセトヨリ食料ヲ

